



四十周年

福島東高等学校同窓会会長

金子 與志人



一年に一度のご挨拶となりませんが、日頃は同窓会活動へのご協力、ご支援を頂いています。と御礼申し上げます。また役員一同感謝の気持ちでいっぱいです。

同窓会としては、会の活動や在校生支援を主として行っていますが、限られた人員と時間の中で、事なごに足りない点は多々あると思います。何かお気づきの点がありましたら遠慮なく仰って下さい。また、この同

窓会活動が毎年スムーズに実施出来ていまして、吉田校長先生、職員の皆様のご理解と事務局を運営して下さい。同窓生職員の皆様のお陰です。本当にありがとうございます。

冒頭ではありますが、まずはお読みくださっている方々と運営に携わっている方々へ御礼と今後のご協力を申し上げます。どうぞよろしく願います。

さて、本題に入ります。今年度は福島県立福島東高等学校創立四十周年です。そして年またぎではありますが、四十周年式典等行事を令和二年十月十日に挙行いたします。産声をあげた四十年前、三期

生の私が入学し初めて三学年が揃った三十八年前、平成七年からは共学となり、福島東高等学校は常に新しい歴史を刻み続けています。

創立当初からの理念「文武両道」は今でも脈々と引き継がれています。卒業生の数は一万人以上になり福島市内は勿論のこと、県内においても同窓生と会うチャンスが増えて来ました。

そんな福島東高等学校の四十周年式典に向け、今年の十月十日の一年以上前から実行委員会を立ち上げ二ヶ月に一回位のペースで委員会を開催しています。四つの分科会で分業し式典実施内容・四十周年冊子編集・記念品企画・資金集めなどあらゆる事を父母と教師の会役員の皆様の絶大な力をお借りし企画・検討・精査しております。

父母と教師の会役員の方々におかれましては在校生の保護者様ですがお忙しい夕方の時間に委員会の為に学校に来て頂いている次第です。

また、今回は三十周年や五十周年と言った大きな節目とは違うので対外向けではありません。主旨としては在校生の思い出になり同窓生が懐かしみ、五十周年へ繋がって行ければと思っています。実行委員会メンバーである学校・父母と教師の会・同窓会が三位一体となり企画準備しています。

そしてもうひとつのご案内とお願いです。

今年と同窓会総会開催の年です。通常の議題をご審議いただく場ですが、四十周年式典等へのアドバイスやご意見などをお伺い出来れば幸いです。運営上、毎年の同窓会開催は難しく二年に一度しか行っていないですが、そんな数少ないチャンスに交友関係を深めさせて下さい。最後にご報告申し上げます。先程も申し上げました通り同窓生数が一万人以上になりますと、総会案内やこれからの周年

事業（五十周年など）案内に多大な経費がかかっています。そこで今後はネットやメールを活用した方法を検討しています。具体的な内容は総会時にお話出来ると思いますがその際にもご助言等よろしく願います。

今回もお願い事が多い会報挨拶文となりましたが、皆様のご協力のお陰で同窓会も四十年を迎える事が出来ました。改めて感謝を申し上げ挨拶とさせていただきます。

今年も皆様にとって素晴らしい年になりますことお祈りいたします。

総会のお知らせ

【日時】	令和2年2月23日(日)
同窓会総会	17:00~
懇親会	18:00~
【場所】	ウエディング エルティ
【出席締切】	令和2年2月7日(金)必着
【懇親会費】	6,000円
	学生 3,000円

「福島県立福島東高等学校Ⅱ」

福島東高等学校長 吉田 強 栄



巨人の長嶋茂雄監督辞任、王貞治選手引退、日本がモスクワオリンピックをボイコット、ロングヘアーの流行、ノストラダムス大予言Ⅱがベストセラーに……。

これらは本校が創立された昭和五十五年の出来事です。あの頃だったかと懐かしむ人もいるのではないのでしょうか。

昨年は、元号が平成から令和へと変わり、新しい時代の幕開けとなりました。新元号は万葉集にある歌の序文「初春の令月にして気淑く風和ぎ梅は鏡前の粉を披き蘭は珮後の香を薫らす」から二文字をとったものです。

「平成」までの二四七の元号すべてが中国の古典を典拠としていとされていましたが、日本の古典から引用されたのは初めてのことだそうです。さて、東高は昨年度、国公立

大学合格者は過年度卒を含め九十三名でした。一昨年に比べ合格者は減少したものの、東北大学、福島県立医科大学（過年度卒二）合格など、大いに健闘しました。また、本年度は部活動において、宮崎県で開催された令和元年度全国高等学校総合体育大会では、男子ソフトボール部が十九年ぶりに出場を果たし、弓道部女子が個人で決勝まで駒を進めました。さらには、放送委員会がNHK杯全国高校放送コンテストに出場を果たし、書道部が福島県高等学校総合文化祭書道部門において、次年度に開催される全国高等学校総合文化祭書道部門に二十二年ぶりに出場することとなり、東高生の健闘ぶりが見られます。まさに創立以来の「文武両道」の成果といえます。

そしてなによりも東高は、令和元年の新しい時代の幕開けと共に創立四十周年を迎えることとなりました。現在、金子興志人同窓会長を実行委員会委員長として、同窓会役員、本校OB教職員、PTA役員の方々により実行委員会が組織され、令和二年十月十日（土）にとうほう・みんなの文化センターで開催される福島県立福島東高等学校創立四十周年記念式典に向けて準備を進めているところです。「生徒主体の行事にしよう。」との周年行事の方向性が第一回の実行委員会で決定しました。そこで、記念講演は本校のOBである画家の齋正機氏（二期生）とタレントのなすび氏（二期生）、そして、ラジオ福島アナウンサーの菅原美智子氏をコネクターとして対談を予定しております。また、記念事業として同窓会より体育館用パイプ椅子を三〇〇脚が贈呈される予定です。その他、記念誌の発行、記念式典の準備等を行っており、多くの東高関係者の御協力と御支援により素晴らしい四十周年記念事業になることと想われます。

しかし、一方で東高として解決してゆかなければならない課題も山積しております。その一つとして、少子高齢化による県立高等学校の統廃合や学級減があげられます。本県は少子化の進行により、中学校卒業見込者は今後もさらに減少を続け、二〇一七年（平成二十九年）三月の中学校卒業生数に比べて、二〇二八年（令和十年）三月の卒業見込者数は、約五三〇〇人減少するとの見込みです。その対応として、県教育委員会では県立高等学校改革前期実施計画を策定しました。この計画により東高は次年度より一学級減となり学年七学級から一学級減の六学級となります。校長として、一学級減による影響は東高にとって非常に大きいものと考えております。例えば、学級数の減は、生徒数の減にとどまらず、教員数の減につながります。このことは、学校経営に当たって、教職員の一人一人の役割、例えば、学級担任、生徒指導、進路指導、部活動顧問等の校務分掌に配置する教員が不足することとなり、十分な指導体制が確保出来なくなることに懸念されます。現状を維持しようとするれば、教員一人一人の負担が増すことは避けられず、現在、取り組んでいる働き方改革に逆行することにもなります。

これらの対応として、学習面においては現在、数学、英語、国語の授業で行っているティームティーチングや習熟度別による指導を行わず、教師一人による一斉授業を実施することが、部活動面においては部活動の数を減らすことが、最も効果的な対応して考えられます。しかし、昭和五十五年の創立以来、高いレベルで『文武両道』を実践してきている東高にとってはその教育方針、ひいては東高の在り方に直結する変更を余儀なくされるという非常に解決困難な課題であります。現在、特に部活動については、その改革を含め協議を行っておりますが、結論には至っておりません。このことから、現在東高は大きな節目を迎えており、十年後、二十年後、五十年後：そして、百年後を見据えた改革を実行してゆかなければなりません。校長として、東高二年目、この大変な時期をどう乗り越えてゆくか。「大変」とは大きく変わると書きます。大きな困難は、発展するための大いなるチャンスと捉えます。東高の未来のために教職員一丸となって今よりもっと素晴らしい東高に「大きく変えて」ゆきたいと考えております。

同窓会の皆様におかれましては、引き続き御支援と御協力をお願いいたします。年が明け令和二年、今年も同窓会の皆様の御健勝と東高にとって大いなる飛躍の年でありますように心より祈念しております。

福島県立福島東高等学校同窓会規約

[名称および事務局]
第1条 本会は福島県立福島東高等学校同窓会と称し、事務局を福島東高等学校内におく。
[目的および事業]
第2条 本会は会員相互の親睦を図り、母校の発展に寄与することを目的とする。
第3条 本会は次の事業を行う。
1. 総会の開催
2. 会員名簿・会報の発行
3. 母校の後援
4. その他本会の目的達成に必要な事項
[会員]
第4条 本会の会員は、本校卒業生並びに本校の退転校者で総会に承認された者とする。
[役員]
第5条 本会に次の役員をおく。
1. 会長 1名
2. 副会長 3～5名
3. 理事 若干名
4. 監事 3名
5. 幹事 若干名
第6条 役員は次のとおりとする。
1. 会長・副会長および監事は会員中より理事会において推薦し、総会で決定する。
2. 幹事は卒業年次毎に各クラスから2名を互選する。
3. 理事は幹事の中から会長が任命する。
4. 名誉会長は前会長とする。
第7条 役員は次のとおりとする。
1. 会長は本会を代表し、会務を総理する。
2. 副会長は会長を補佐し、会長事故ある時は職務を代行する。
3. 理事は会の運営にたずさわり、会務を処理する。
4. 監事は会計を監査する。
5. 監事は他の役員を補佐し、会務運営の推進をはかる。
第8条 役員は任期は2年とし、再任を妨げない。

[顧問]
第9条 本会に名誉会長と顧問をおける。顧問は会長が委嘱し、会長の諮問に応ずる。
[総会]
第10条 総会は会長が召集し原則として年一回開く。ただし、会長が必要と認め時は臨時総会を開くことができる。
第11条 総会では次の事項を審議し決定する。
1. 事業報告並びに決算の承認
2. 事業計画並びに予算の承認
3. 役員選出
4. 規約の改廃
5. その他重要な事項
第12条 総会の議事は出席者の過半数を持って決定する。
第13条 総会はその権限の一部を理事会または会長・副会長・監事で構成される役員会に委任することができる。
[理事会]
第14条 理事会は会長・副会長・監事・理事をもって構成する。
第15条 理事会は会長が召集し、本会運営上必要な事項を審議・決定するとともに本会の業務の執行にあたる。
[事務局]
第16条 事務局は関係表簿を備え、庶務、会計を執行する。
第17条 事務局はその業務の一部を母校職員に委嘱することができる。
[会計]
第18条 本会の経費は入会金・終身会費・寄付金・その他の収入でまかなう。
第19条 本会は入会に際し、入会金6,000円・終身会費6,000円を納入する。
第20条 本会の会計年度は4月1日より翌年3月末日までとする。
第21条 年度会計決算ならびに年度予算案は会長・副会長・監事の了承をもって総会の承認にかえることができる。
附則 1. この規約には次の規程が付属する。
○ 在校生支援規程
この規約は昭和58年2月28日から施行する。
この規約は平成28年6月6日から改正する。

平成30年度 歳入歳出決算書

Table with 2 columns: 項目, 金額. 歳入金額 4,713,645円, 歳出金額 4,280,353円, 差引残額 433,292円

1. 歳入 ▲は減少 単位:円

Table with 5 columns: 項目, 30年度予算額, 30年度決算額, 比較増減額, 備考. Total 4,678,000 vs 4,713,645

2. 歳出

Table with 5 columns: 項目(科目), 30年度予算額, 30年度決算額, 比較増減額, 備考. Total 4,678,000 vs 4,280,353

* 項目科目間の流用を認める。

平成31年・令和元年度 歳入歳出予算書

Table with 2 columns: 項目, 金額. 歳入金額 4,490,000円, 歳出金額 4,490,000円, 差引残額 0円

1. 歳入 ▲は減少 単位:円

Table with 5 columns: 項目, 31年度予算額, 30年度決算額, 比較増減額, 備考. Total 4,490,000 vs 4,713,645

2. 歳出

Table with 5 columns: 項目(科目), 31年度予算額, 30年度決算額, 比較増減額, 備考. Total 4,490,000 vs 4,280,353

* 項目科目間の流用を認める。

「東高応援基金」協賛者名

(敬称略)

※()は卒業期、()は旧姓
○「東高応援基金について」

文武両道に全力で取り組む後輩達に金銭的な支援を行うことを目的に平成十七年度から始まったこの事業に多くの同窓生にご賛同いただきありがとうございます。今後の在校生支援を継続して行く財源の確保のため、この「東高応援基金」へさらに多くの同窓生の方にご協力をいただきますようお願いいたします。同封した振込み用紙にてお願いいたします。その際、おわかりになっていけば、卒業年度もしくは何期かをご記入下さい。

なお、ここ数年にわたって福島市役所の職場同窓会である福島市役所東桜会から、部活動支援のためという趣旨で多額のご寄付があります。これは部活動支援のための後援会会計に繰り入れ活用させていただいております。このような職場同窓会の活動に心より感謝申し上げます。

卒業生

西山尚利(1)秋山達也(1)橋内重康(1)三浦信彦(1)阿部宗弘(1)加藤和宏(1)菊田英俊(1)佐戸川政実(1)大平睦生(1)久能靖(1)笹木毅(1)菊池浩二(1)尾形幸男(1)尾形信裕(1)鈴木弘明(1)穴戸英樹(2)渡辺武浩(2)

阿部浩行(2)目黒幹浩(2)阿部真人(2)穴戸佐寿(2)小野浩樹(2)齋藤正義(2)渡辺伸一(2)齋藤孝一(3)大内則和(3)蒲倉達也(3)佐々木晋一(3)佐藤和生(3)岡田正明(3)清野昭彦(3)森進一(3)安藤武仁(3)寺島健吾(3)大井奨(3)菅野功(3)紺野勝弘(3)泉田太郎(3)植田光樹(3)齋藤文孝(3)須田秀一(3)太田幸人(3)佐藤智彦(3)坂巻幸司(3)小林雄(3)高根功幸(3)鈴木友彦(3)尾形典良(3)河野糧祐(4)吉川裕(4)上原子祐司(4)高橋康道(4)氏家祥市(4)梅津清(4)星達雄(4)佐藤真一(4)佐久間泉(4)佐々木正則(4)古関邦彦(4)峯智和(4)上川高志(5)室井克典(5)渡辺幹男(5)小野友史(5)小竹智行(5)下田克典(5)手塚健一(5)作山稔樹(5)齋藤(5)手塚健一(5)佐藤忠之(5)伊藤隆(5)緑山淳一(5)渡辺裕哉(5)菅野晃弘(5)高野秀和(5)永澤憲一(5)尾形隆(5)伊藤勝宏(5)立谷保(5)高橋城士(6)後藤洋一(6)山川毅(6)桂山洋幸(6)鈴木一義(6)小原弘人(6)佐藤利休(6)佐々木崇(7)渡部泰史(7)大波哲也(7)中村(半澤)孝雄(7)佐藤仁一(7)山岸竜大(7)黒江昌宏(7)長谷川剛志(7)松本琢也(7)石原英明(8)関克典(8)植木博隆(8)鈴木淳(8)齋藤晃一(8)小林孝雄(8)安齋晃(8)菅野巧(9)大槻進也(9)河野拓和(9)齋藤弘樹(9)梅宮克美(9)佐藤浩規(9)服部博(9)川瀬哲雄(9)鈴木勇人(9)後藤政則(9)内山雄史(10)佐々木靖広(10)遠藤司(10)石井哲司(10)加藤芳史(10)尾形敦寛(10)熊坂隆行(10)野口幸哉(10)吉田耕嗣(10)高橋誠(10)林

容市(10)熊本康(10)佐竹康弘(11)芳賀利規(11)高坂知秀(11)佐藤喜也(11)宮崎康弘(11)八島貴宏(11)菅野悟史(11)齋藤讓(12)阿部友弘(12)大槻祐司(12)猿田秀和(12)吉田俊一(12)鈴木順一(13)渡邊勝己(13)石川亨(13)川勝庸史(13)根本和彦(13)鳴原健二(13)廣野功二郎(14)高橋剛(14)伊藤規義(14)丹治剛俊(14)中村充浩(14)紺野真人(14)木幡健一(14)渡邊繁(15)柘植健至(15)石山誠(15)安藤正希(15)佐藤敬之(15)齋藤訓朗(15)菅野元樹(15)木村早苗(16)橋本真(16)古関康宏(16)土屋令雄(16)安部光(17)大葉(尾形)真希(17)大橋洋(17)木内(佐瀬)智紀(18)今野陽介(18)野口(大槻)雪乃(18)根本元徳(18)石河貴広(18)齋藤貴裕(18)阿部尚俊(18)水野裕史(18)国分(鈴木)博子(19)片平美代子(19)利根川純平(19)浅川吉和(19)大橋喜隆(19)佐藤翔太(19)石澤由美(19)櫻田貴志(20)武藤正昭(20)利根川庸平(20)二瓶真人(20)阿部真治(20)古山由佳(20)佐藤美智子(21)伊達孝浩(21)齋藤元(21)齋藤広彰(21)渡邊将人(22)佐藤宏樹(22)阿部健治(22)渡邊香織(22)尾形慶(22)和田(古積)かおる(23)水口秀一(23)菅野数宙(24)菅野章平(24)國分優佳(24)阿部兼太郎(24)菅野峻介(24)福地美香(24)見城藍(24)加藤千裕(25)住吉瞬(25)宮本主太(25)齋藤大地(25)橋本宏貴(26)千代間祥之(26)佐藤芳哉(27)渡辺愛(27)根本明大(27)松浦由樹(27)古山彩佳(27)本田航(28)澤井友平(28)吉田優(28)佐藤望(28)五十嵐絵里(28)大和田善愛(28)加藤真弓(29)佐藤匠(29)菊池貴之(29)尾形茉帆(29)薄健介(29)菅野

令和元年度在校生支援事業	
○定期演奏会・発表会補助	
・吹奏楽部	
第36回定期演奏会	50,000円
・合唱部	
第17回定期演奏会	50,000円
○全国大会出場激励金	
・ソフトボール部	420,000円
・弓道部	30,000円
・放送委員会	60,000円
・サッカー一部	30,000円
○体育設備支援	
・ソフトボール部	36,000円

良太(30)高橋ほなみ(30)萩原夏美(30)高島麗奈(30)宮田凌佑(30)幕田隆介(30)村上諒(31)杉内瑛(31)吉田友和(31)澤井直久(31)菅野友美(31)高橋史弥(31)小林聡(31)佐藤雅(31)豊田大智(31)大貫秀人(31)金子耕也(32)浅野宏次(32)福富亮(32)元村隼登(32)山岸勇士(32)油井真理絵(32)渡辺駿(32)大河内翔伊(32)門馬琢朗(33)佐藤由佳(33)佐藤佑哉(33)丹治航(33)佐竹光紀(33)加藤佳耶子(34)佐々木茜(34)齋藤慎悟(34)後藤千尋(34)石井汰一(34)遠藤瑠菜(34)上原子祐麻(34)鈴木大貴(34)井實玄成(35)加藤沙和子(35)佐藤世理(35)長谷部咲子(35)鈴木あきよ(35)片平翔太(35)遠藤裕(35)本多耕大(35)長谷川遼(35)大山千咲(35)小河原大樹(36)菅野菜(36)齋藤朋華(36)齋藤晴紀(36)佐藤大夢(36)猪狩菜々子(36)瀬戸京詩(36)三浦奏美(36)吉田海人(36)上田香奈恵(36)武藤和輝(36)山田梨央(36)小川結帆(36)山田凌史(36)石川夏希(36)長田健太郎(36)遠藤典(36)梅津玲太(36)会田千佳(36)

旧職員 深澤陽一、千葉宏、西勝文夫、遠藤教広、穴戸英樹、原田啓一、岡崎政朝、丹治紀雄、渡部哲緒、諏佐一夫、佐藤道郎、平岩典男、田村秀夫、本多光弥、佐藤茂夫、齋藤和也、松浦健二、長岐博、大貫由雄、黒澤元省、原隆弘、長久保宏人、三浦賢一、力丸繁、相楽新之助、渡辺喜市、星和久、渡辺州、鈴木浩一、菅野賢二、渡邊ひろみ、吉田豊彦
一般個人 加藤義博
福島市役所東桜会
◎ 平成三十一年四月一日から現在までに振り込みがあった方を掲載しました。保護者名で振り込まれた場合は生徒名で報告させていただきます。この場をお借りして厚く御礼申し上げます。氏名等の誤りがありましたら、事務局までご一報下さい。

(表1) 年度別 現役合格者 延べ人数

卒業年度	1期 S57年	2期 S58年	3期 S59年	4期 S60年	5期 S61年	6期 S62年	7期 S63年	8期 H1年	9期 H2年	10期 H3年	11期 H4年	12期 H5年	13期 H6年
学級数	6	6	6	6	8	8	8	8	9	9	9	9	9
卒業者数	(281)	(265)	(262)	(283)	(365)	(361)	(372)	(376)	(427)	(423)	(431)	(421)	(408)
国公立大	72	57	78	62	93	70	103	78	65	88	109	96	109
私立大	160	117	144	129	199	180	225	259	188	278	291	333	299

卒業年度	14期 H7年	15期 H8年	16期 H9年	17期 H10年	18期 H11年	19期 H12年	20期 H13年	21期 H14年	22期 H15年	23期 H16年	24期 H17年	25期 H18年
学級数	9	8	8	9	9	9	9	9	9	8	8	8
卒業者数	(403)	(357)	(354)	(351)	(354)	(362)	(350)	(358)	(359)	(314)	(316)	(318)
国公立大	85	109	113	114	145	150	115	165	153	154	171	126
私立大	418	413	327	313	311	346	349	247	248	305	318	329

卒業年度	26期 H19年	27期 H20年	28期 H21年	29期 H22年	30期 H23年	31期 H24年	32期 H25年	33期 H26年	34期 H27年	35期 H28年	36期 H29年	37期 H30年
学級数	8	8	8	8	8	8	7	8	7	7	7	7
卒業者数	(313)	(310)	(307)	(316)	(311)	(315)	(281)	(312)	(275)	(274)	(275)	(264)
国公立大	139	165	115	134	139	109	94	102	90	100	112	80
私立大	351	240	284	265	373	319	334	438	390	362	340	340

(表2) 大学別合格者数 (平成30・29・28年度入試)

大学名	平成30年度生	平成29年度生	平成28年度生
北海道大	0	1	0
北見工業大	0	0	2
北海道教育大(旭川)	0	1	0
北海道教育大(函館)	0	1	0
室蘭工業大	0	1	2
岩手大	0	3	1
東北大	1	0	4
宮城教育大	1	0	1
秋田大	0	2	0
山形大	9	14	11
福島大	27	47	27
茨城大	1	1	4
筑波大	1	1	3
宇都宮大	5	2	4
埼玉大	1	2	1
新潟大	9	13	9
上越教育大	1	1	1
富山大	0	1	0
金沢大	1	0	0
名寄市立大	1	0	0
青森公立大	0	1	0
青森県立保健大	1	0	0
岩手県立大	0	0	2
宮城大	3	0	0
秋田県立大	1	0	6
山形県立保健医療大	0	1	1
山形県立米沢栄養大	1	0	0
会津大	2	4	2
福島県立医大(看)	2	2	4
前橋工科大	0	0	1
群馬県立女子大	0	0	2
高崎経済大	0	5	2
千葉保健医療大	0	0	1
横浜市立大	1	0	0
新潟県立大	6	3	4
新潟県立看護大	1	0	1
長岡造形大	0	1	0
都留文科大	1	0	0
長野大	1	1	3
福知山公立大	2	0	0
尾道市立大	0	1	0
鳥取環境大	0	1	0
名桜大	0	1	1
その他	0	0	0
計	80	112	100

大学名	平成30年度生	平成29年度生	平成28年度生
仙台大	12	1	3
東北学院大	56	49	29
東北福祉大	40	33	57
東北医薬科大	2	5	3
宮城学院女子大	22	11	8
東北芸術工科大	2	2	2
国際医療福祉大	11	10	6
白鴎大	10	9	15
獨協大	1	2	8
文教大	3	4	12
女子栄養大	0	0	2
神田外語大	0	3	1
淑徳大	0	2	4
青山学院大	1	1	1
亜細亜大	1	0	0
北里大	1	0	0
國學院大	0	2	0
国士館大	1	4	0
駒澤大	0	7	5
芝浦工業大	2	0	1
成蹊大	0	1	2
成城大	1	0	2
専修大	2	6	8
大東文化大	2	11	2
玉川大	1	0	2
中央大	2	3	3
帝京大	2	5	3
東海大	4	18	13
東京工科大	0	1	4
東京農業大	9	0	3
東洋大	1	4	13
日本大	16	20	32
日本社会事業大	1	0	1
日本女子大	0	1	0
法政大	2	3	4
明治大	1	1	2
明治学院大	0	1	0
早稲田大	0	0	2
神奈川大	5	9	23
関東学院大	1	4	3
新潟医療福祉大	0	5	4
同志社大	1	0	2
立命館大	0	1	3
その他	124	101	74
計	340	340	362

進路



進路指導主事
霜山 麻美

今年度の全国の大学入試センター試験の受験者数は若干の減少となった。十八歳人口の減少に加えて推薦・AO入試を活用

した受験生が例年より増加したことが一因と考えられる。また、受験科目数が三六科目の私立型受験生も久しぶりに減少した。昨春入試から大学入学定員管理の適正化を背景に都市部私立大が総じて難化した影響から、私立型受験生の減少につながっていると考えら

現役大学等進学率…平成30年度生 (82.2%)、平成29年度生 (84.8%)、平成28年度生 (86.5%)

れる。

センター試験の科目別の平均点(全国)では、英語・筆記の平均点は昨年度並みだったものの、リスニングが易化した影響で、全体の平均点はアップした。数学では「数学I・数学A」の平均点がダウンしたものの、「数学II・数学B」の平均点がアップした。注目は国語の平均点で、昨年から大幅にアップした。理科①では、選択者の多い「生物基礎」の平均点がダウンした。ただし、科目間の平均点差はなく、選択科目による不公平感を感じられなかった。その結果、総合型平均点は七科目文系型、七科目理系型ともに上昇した。文理ともに受験する「英語リスニング」「国語」の平均点アップが、総合の平均点の上昇につながっており、文系・理系とも八割以上の高得点者が増加した。

〇入試の割合を拡大する傾向が全国的に続いている。また難関大を中心に後期日程を廃止・縮小する動きが引き続きみられる。出願できる大学も限られるが、後期日程に出願しない受験生も増加している。本校生には後期日程の最後まで粘るよう引き続き指導していく。地元の福島大学では、食農学類の新設によって他の学類の定員が減り、全体として厳しい入試であった。とくに、人間発達文化学類では、今年度よりコース別の募集となったため、コースごとの難易度の差に大きい特徴がみられた。心理学・幼児教育、人文科学(英語)、スポーツ健康科学などのコースでは高倍率で非常に厳しい入試であった。一方で、数理自然科学は、比較的落ち着いた入試であった。今年度は、東北大学一名、福島大学二十七名、新潟大学九名の合格者を出し、国公立大学の現役合格者数は八十名となった。福島大学の入試の厳しさが影響したと考えられる。今後この傾向は続くと予想されるため、対策を考えていく。

来年度から実施予定であった、大学入試英語成績提供システムを利用した大学受験については、令和七年度大学入学者選抜に実施する試験まで延期となった。英語の検定試験の利用については、今後ホームページ等で確認をする必要がある。また、大学入試共通テストは予定通り実施される。国語、数学の記述問題の導入、また英語の記述とリスニングの配点変更に向けて引き続き指導していきたい。

37期総括



37期学年主任
千葉 聡

一、はじめに

現在、新しい生徒たちと向き合い、新しい未来に向かって歩み出している。こんな風にかくさんの生徒たちの人生に寄り添えることの素晴らしさを今更ながら感じている。今、三十七期生の「卒業アルバム」や「合格体験記」に目を通しながら、生徒たちの笑顔に溢れた三年間を思い起こしながらとても幸せな気分浸っている。

担任団は島貫千穂、氏家清和、伊藤規生、渡辺裕子、佐藤伸也、菅野俊樹、千葉聡。副担任は眞柴毅(一、二年次)、佐久間優介(一年次)、齋藤克幸(二、三年

次)、重川和儀(三年次)が担当した。ベテラン揃いで、入学前の学年会からさまざまな状況を想定して細やかな打ち合わせを何度も行ったことを記憶している。それぞれの思いが深く、一つのことに対していくつも案が出てくる。何となく決まらないところがいい。納得がいくまで議論を重ねて計画し、実行にあたっては経験値とコミュニケーションで修正をしていく。そんな頼りがいのある担任団であった。

ばかりであったに違いない。「応援歌練習」や「部活動」では先輩たちの実力に圧倒され、慣れない電車通学で疲労困憊になる生徒も見受けられた。ひとつひとつを全力で経験しながら成長していくことは、彼らにとって時には辛い事でもあったかもしれないが、成長の過程でもある。我々担任にできることは寄り添うこと。時には手助けせずに静観することも必要なこととも思っていた。「当たり前」のレベルを上げていくために、時には苦しいことにも立ち向かおうという覚悟が我々担任にも芽生えていたように感じている。

「本物に触れる」をテーマに、生徒と共に成長していこうという気迫があった。

二、入学の頃

真新しい制服に身を包み、エネルギー溢る顔が入学式に並ぶ。東高の三年間で、当たり前のことは当たり前、そしてどんな困難にも立ち向かっていく逞しさを身につけて欲しいと願いながら呼名した。保護者の方々と共通理解を深めながらも、あえて種類の違う愛情を注ぎたいとも感じていた。三年後に新しい社会に飛び込んでいく彼らに東高魂を伝えていくことも我々の大切な役割であるように思っていたからだ。卒業後も声高らかに東高の校歌を歌えるようなそんな生徒に育って欲しいと心から願った。

中学校三年間の生活を終えたばかりの生徒たちにとって、東高での高校生活は真新しいこと

三、本物に触れた行事

印象に残っている行事のひとつに「自然文化探究学習」がある。毎年春に行っている行事であるが、二年生の実施にあたっては今までと大きく方向を転換し、富岡町訪問を決断した。平成二十九年四月に期間困難区域を除く地域において避難指示区域の設定が解除になったことに合わせ、災害からの復興と再生を實際に体験して欲しいと考えたからだ。立案にあたっては震災当時に富岡高校に勤務してい

た佐藤伸也教諭が中心となり、議論を重ねた。さらに「富岡町三・一を語る会」や「福島県立博物館」の協力を得て実現することとなった。避難が解除されない地区のバリエードや主を失った家の様子をバスの中から目にしたとき、生徒ひとりひとりの心に何かが宿り、沸々とエネルギーを湧き上がらせるのを感じたような気がする。復興を目指して活動する人々と実際に言葉をおぼわしたことは、後の進路決定においても大きな力となったと感じている。

修学旅行もまた印象的であった。前年度の二〇一六年にオバマ大統領が広島に訪問したこともあり、生徒たちの間でも平和に関する関心が高まっていた。アメリカにとって「原爆投下は米兵の命を救った」との論が大勢であった状況での大統領の広島訪問がもたらす意味や、語り部の方から伺った原爆投下前後の悲惨な状況など：想像を絶する本物の世界が私たちを圧倒し、学校内の生活では手に入れない貴重な経験をする事ができた。見学地にUSJが入っていないことが生徒たちにとっては残念であったようだが、少し可哀想なことをしたかなと思う反面、限られた時間

の中で貴重な体験を数多くさせてあげることができたとも思っている。

東桜祭では生徒たちの発信するパワーをたくさん感じることとなった。東高の生徒たちは本当に手がかららない。自ら考え行動する力を備えている。それだけに彼らの方向性と我々の方向性が異なるときには対話がより必要となる。生徒たちととんとん対話することは我々にとっても有意義で立場の違いにかかわらず成長を感じることができている。生徒たちやPTAの方々のパワーと有り難さを存分に味わった文化祭となった。

三十七期の行事で、長きにわたって続いていた伝統を変えることとなったものが一つある。冬期スポーツ大会である。例年、夏と冬にそれぞれ二日間開催してきた東高ならではの行事である。十二月の開催はセクター試験直前ということもあり、一年次より生徒と議論を重ねてきた。その結果、夏は二日間開催、冬は一日開催ということに決定。文武両道のあり方を自分たちなりに模索した結果である。良いか悪いかというよりも、「自分たちにとってどうあるべきか」を共に考えることができた有意義な議論であった。

四、進路活動

福島大学に食農学類の新設という大きな動きがあった。そのためその他の学類の定員の減少や人間発達文化学類のコース別募集により、厳しい入試となった。また、一年次より国立大学の希望が高いのは例年通りであったが、学びたい学科や内容により私立大学を視野に入れる割合に変化が見られたのも三十七期の特徴であった。同時に国公私立を問わずAO試験や推薦試験の活用を工夫することが求められるようになったのもこの学年からの傾向である。

文武両道が求められる東高生にとって、一・二年次は学習時間の確保と基礎力の定着が第一条件である。模擬試験の結果に一喜一憂することなく継続的な家庭学習を呼びかけ続けてきた。進路意識の高い生徒は早い時期からオープンキャンパスに出かけ、自分自身の興味関心と志望大学のマッチングに努めた。最終的にセンター試験では全国平均点の上昇など、必ずしも東高生にとって良いとは思われない状況の中で頑張り抜いたと思っている。気がついたら卒業式：充実していた時間が確かに流れていたと感じている。数字では語れない一人一人の努力

や思い、そしてそれは溢れんばかりの保護者の方々の愛情によって支えられたものである。自分が歩み出した一歩に誇りを持って進んでいってほしいと願っている。また、今年度の合格を目指して、今この瞬間にも努力を継続している三十七期生の諸君に春が訪れることを願うばかりである。

五、最後に

「学ぶことは日々を新しくすること」東高校歌の一節である。三十七期生はまさに自ら考え、学び、成長していった。我々

全国大会出場報告

国体を終えて

サッカー部 藤原 秀斗

僕は十月末に茨城県で開催された、「いきいき茨城ゆめ国体」に参加してきました。去年に引き続き二年連続で国体に出場することができました。結果は初戦で熊本に〇―一で負けてしまいました。痛感してきました。この大会を通して僕が一番感じたことは、全国のレベルは高いということです。去年も出場して自分のプレーが通用せず一年間練習

担任は彼らの歴史の一ページに立ち会ったに過ぎないが、これからは彼らが自分自身をアップデートしつづけ、世の中の歴史をもアップデートし続けてくれることを信じて疑わない。まずまずの成長が楽しみである。最後に、東高生らしく立派に成長した三十七期生をこのように新会員として同窓会の先輩方に送り出すことができたことを誇りに思う。東高応援団のひとりとして、彼らの今後の活躍を祈りながらご報告とさせていただきます。



に励んできたつもりが今年も自分のプレーが全然通用しません

でした。情けないと強く思いま
した。まして福島県の十番を背
負っていることに申し訳ない気
持ちでいっぱいでした。しかし
このように福島県代表としての
責任を背負い戦ってきたことは
とても貴重な体験だったと思
います。

今年の東高サッカー部の目標
は「全国制覇」という大きな目
標です。実現させるために僕が
全国大会のレベルの高さや、通
用するために身につけなければ
いけない技術、僕が国体に参加
して経験し体感した事をチーム
に還元して、目標達成のために
努力していきたいと思えます。

**令和元年度全国高等学校総
合体育大会(南部九州総体
二〇一九) 出場報告**

ソフトボール部顧問 重川 和儀

本校ソフトボール部は、今年
度のインターハイ県予選におい
て十九年ぶりの優勝を果たし、
八月に宮崎県で行われた令和元
年度全国高等学校総合体育大会
(インターハイ)に出場してまい
りました。初戦の相手は好投手
を擁する山口県代表の徳山高校
でした。惜しくも敗れはしまし
たが選手たちは全国大会とい
う大舞台で自分たちのできる限り



の力を出し、精一杯のプレーを
見せてくれました。試合後の選
手たちの表情は晴々としてお
り、悔いのない試合が出来たと
思っております。選手たちに
とって今回の大会は、一生忘れ
ることのない思い出になりました

た。この経験を次の世代へと継
承し、全国大会での勝利を達成
できるよう日々精進してまい
りたいと思えます。

この度のインターハイ出場に
際し、同窓会の方々はじめ多く
の方々へ格別のご支援、ご声援
を賜りましたこと、心より御礼
申し上げます。皆様から頂いた
温かいご声援を胸に、引き続き
精進してまいりますので、温か
く見守っていただければ幸いで
す。

**令和元年度全国高等学校総
合体育大会(南部九州総体
二〇一九) 出場報告**

弓道部顧問 羽田 真幸

本校弓道部の岩井わか菜さん
が令和最初のインターハイ県大
会において十二射皆中という成
績で全国インターハイへの出場
権を獲得し、八月七日に宮崎県
で開催された全国インターハイ
弓道競技に個人で出場してまい
りました。

結果は、予選・準決勝ともに
四射皆中(放った全ての矢が的
中)し、限られた選手しか進む
ことのできない全国の決勝へ進
みました。決勝は、一射ずつ矢
を放つ射詰(サドンデス)のよう
なもので行われ、一射一射に

魂を込めながら的中を重ねてい
きましたが、惜しくも入賞には
至りませんでした。

しかし、移動日から悪天候に
見舞われ、移動や前日六日に予
定されていた公式練習の中止と
なり不安もありましたが、岩井
さん自身は冷静に集中して当日
の競技に臨み、凛々しく堂々と
した射を魅せてくれました。

彼女自身で射場へ立つまでの
計画や様々な行動をコントロー
ルしており、選手として一人の
人間としての能力の高さを間近
で見せてもらうことができました。

過去の全国大会へ出場した先
輩方と同じように、一から作り
上げた東高校弓道部の練習環境
でかけがえのない仲間と厳しい
練習に耐え、全国へ羽ばたいて
いった姿は後輩のみならず、顧



問の私にも勇気を与えてくれま
した。よい経験をさせていただ
いたことに感謝し、次に全国へ
羽ばたく選手のサポートに尽力
してまいります。

この度のインターハイ出場に
際し、介添えとしてサポートに
あたってくれた二年生の加藤凜
さん、弓道部の保護者の皆様、
先生方、そして同窓会の皆様は
じめ多くの方々に格別の御支
援、御声援を賜りましたことに
心より御礼申し上げます。本校
OBとして後輩がより活躍でき
るように日々精進いたしますの
で、今後とも御支援、御指導の
ほどよろしくお願いたします。

○南部九州総体二〇一九(於…
早水公園体育文化センター特
設弓道場)

選手…三年 岩井わか菜
(結果…決勝進出)

介添え…二年 加藤 凜

NHK杯高校放送

コンテストに参加して

放送委員会顧問 伊豆 幸男

同窓会の皆様には、日頃より心温まる御支援をいただき、心より感謝申し上げます。

放送委員会が出場する大会には、毎年東京で開催されるNHK杯高校放送コンテスト（Nコン）と、各都道府県で開催される全国高等学校総合文化祭（全国高総文祭）があります。

また、それぞれの大会には読み部門（アナウンス・朗読）と番組部門（ラジオ・テレビ／ドラマ・ドキュメントなど）があり、生徒たちは全国大会出場を目指して、自分で作ったアナウンス原稿を読む練習を行ったり、構成をみんなで考え取材・編集をして番組作りを行ったりしています。

このような活動を行う中で、



今年にはNコンと佐賀県で開催された全国高総文祭に、読み部門で三年生二名が出場することができました。

特に、Nコンには塚本千鈴さんがアナウンス部門に、阿蘇あかりさんが朗読部門に出場することができました。塚本さんは、東日本大震災復興支援チャリティーコンサートに出演した合唱部部長の合唱に込める思いを、阿蘇さんは、ハッセ作「デーミアン」の一部をデーミアンの細やかな心の動きをしっかりと読み上げました。

その結果、予選に出場した三〇〇人から準決勝に進出できる六十人の狭き門の中に、ともにあと一步という素晴らしい成績を収めることができました。これも、今年は全部門で全国大会出場」という目標を掲げ、生徒たちが力を合わせて取り組んできた結果だと思えます。

後輩たちは、この素晴らしい成績を残した先輩たちを目標に、東高生ならではの視点でよい良い作品作りに励み、「美しい日本語で、伝えたいことをしっかりと伝える」活動に励むと思います。同窓生の皆様には、今後変わらぬ御協力・御支援をいただきますよう、よろしくお願いたします。

令和元年度 部活動報告

●運動部

野球部

▼第71回春季東北地区高等学校野球福島県大会県北支部予選

1回戦 11-4本宮

(4月22日 ほぼら大泉球場)

2回戦 4-1二本松工

(4月28日 ほぼら大泉球場)

準決勝 0-11聖光学院

(5月2日 ほぼら大泉球場)

▼第71回春季東北地区高等学校野球福島県大会

1回戦 7-0会津工

(5月19日 あいづ球場)

2回戦 5-10相馬

(5月20日 あいづ球場)

▼第62回春季県北支部高等学校野球選手権大会

2回戦 10-3橘

(6月9日 ほぼら大泉球場)

3回戦 3-4安達

(6月10日 聖光学院グラウンド)

▼第101回全国高等学校野球選手権記念福島大会

1回戦 6-0福島

(7月11日 ヨク開成山スタジアム)

2回戦 9-0あさか開成

(7月16日 ヨク開成山スタジアム)

3回戦 12-5相馬東

(7月21日 いわきグリーンスタジアム)

4回戦 0-2ふたば未来学園

(7月23日 白河グリーンスタジアム)

▼第71回秋季東北地区高等学校野球福島県大会県北支部予選

1回戦 6-5本宮

(8月27日 ほぼら大泉球場)

2回戦 10-0二本松工

(8月29日 ほぼら大泉球場)

準決勝 1-2学法福島

(9月4日 ほぼら大泉球場)

第4代表決定戦 9-3福島成蹊

(9月5日 ほぼら大泉球場)

▼第71回秋季東北地区高等学校野球福島県大会

1回戦 4-3福島商

(9月14日 ヨク開成山スタジアム)

2回戦 2-3磐城

(9月15日 ヨク開成山スタジアム)

▼第30回秋季県北支部高等学校野球選手権大会

1回戦 9-0福島明成

(10月18日 県営あづま球場)

2回戦 8-2福島工

(10月21日 ほぼら大泉球場)

準決勝 0-9聖光学院

(10月23日 県営あづま球場)

サッカー部

▼第65回福島県高等学校体育大会サッカー競技県北地区大会

(5月10日) 13日福島市十六沼公園サッカー場

第1位

2回戦 3-0福島成蹊

(5月11日 十六沼公園サッカー場)

準決勝 1-0福島商業

(5月12日 十六沼公園サッカー場)

決勝 3-0福島工業

(5月13日 十六沼公園サッカー場)

▼第65回福島県高等学校体育大会サッカー競技(5月25日) 27日福島市十六沼公園サッカー場、会津総合運動公園6月2日、3日Jヴィレッジスタジアム)

ベスト8

2回戦 6-0郡山東

(5月26日 十六沼公園サッカー場)

準々決勝 1-1学法石川

(5月27日 十六沼公園サッカー場)

(延長0-2)

▼F1リーグ(高円宮杯JFA U-18サッカーリーグ2019福島)

第5位

勝ち点32(10勝6敗2分)

第1節 2-2尚志3rd

(4月6日 J.Vスタジアム)

第2節 0-2白河

(4月13日 十六沼公園サッカー場)

第3節 1-1郡山

(4月20日 熱海リゾートホテル)

第4節 0-3帝京安積

(4月27日 十六沼公園サッカー場)

第5節 1-0学法石川2nd

(5月1日 熱海リゾートホテル)

第6節 7-0いわき光洋

(5月5日 いわきグリーンフィールド)

- 第7節 4-1 郡山商業 (6月8日 富岡町多目的広場)
- 第8節 0-1 福島工業 (6月15日 十六沼公園サッカー場)
- 第9節 2-0 湯本 (6月29日 いわきグリーンフィールド)
- 第10節 1-2 尚志3rd (7月6日 尚志高校)
- 第11節 1-0 白河 (7月13日 十六沼公園サッカー場)
- 第12節 2-0 郡山 (7月15日 熱海フットボールセンター)
- 第13節 0-4 帝京安積 (7月20日 十六沼公園サッカー場)
- 第14節 2-0 学法石川2nd (8月24日 覺山公園多目的運動場)
- 第15節 6-0 いわき光洋 (8月31日 尚志高校)
- 第16節 2-3 郡山商業 (9月7日 十六沼公園サッカー場)
- 第17節 2-1 福島工業 (9月14日 十六沼公園サッカー場)
- 第18節 3-1 湯本 (9月21日 広野町サッカー場)

- ▼F3リーグ(高田宮杯JFAU-18サッカーリーグ2019福島県北)
- 第4位 勝ち点28 (9勝3敗1分)
 - 第1節 2-0 福島 (4月21日 福島東高校)
 - 第2節 0-0 福島西 (4月28日 福島東高校)
 - 第3節 4-1 保原 (5月1日 本宮高校)
- ▼第98回全国高等学校サッカー選手権大会福島県大会
- 1次大会 免除
 - 2次大会
 - 3回戦 5-0 福島商業 (10月12日 十六沼公園サッカー場)
 - 4回戦 1-3 郡山商業 (10月13日 十六沼公園サッカー場)
 - ↓(10月26日 Jヴィレッジ)

- ▼令和元年度福島県高等学校新
- 第4節 0-1 福島商業 (5月4日 福島商業高校)
 - 第5節 8-0 二本松工業2nd (6月8日 二本松工業高校)
 - ↓(7月15日 福島東高校)
 - 第6節 1-0 橋 (6月15日 福島明成高校)
 - 第7節 0-1 福島成蹊 (7月28日 福島東高校)
 - 第8節 5-0 福島明成 (6月22日 福島南高校)
 - 第9節 2-0 安達 (6月29日 十六沼公園サッカー場)
 - 第10節 1-0 福島南 (7月7日 福島東高校)
 - 第11節 1-2 聖光学院2nd (7月13日 福島商業高校)
 - 第12節 10-0 松韻福島 (7月20日 本宮高校)
 - 第13節 4-1 本宮 (7月23日 十六沼公園サッカー場)
 - 第13節 4-1 本宮 (8月2日 十六沼公園サッカー場)

- 卓球部
- ▼福島県高等学校体育大会県北地区大会 (11月8日、11日 福島市十六沼公園サッカー場)
- 第1位 2回戦 18-0 保原 (11月9日 十六沼公園サッカー場)
 - 準決勝 5-1 二本松工業 (11月10日 十六沼公園サッカー場)
 - 決勝 7-0 福島成蹊 (11月11日 十六沼公園サッカー場)
- ▼令和元年度福島県高等学校新
- 11月25日 いわきグリーンフィールド多目的広場
 - 11月24日 いわきグリーンフィールド
 - 11月23日 聖光学院
 - 11月30日 いわきグリーンフィールド
 - 12月1日 いわきグリーンフィールド

- ▼令和元年度福島県総合体育大会卓球競技県北地区予選
- 男子 個人ダブルス 佐藤・渡辺
 - 個人シングルス 大内(2回戦敗退)
 - 寺嶋・植野(緒戦敗退)
 - 個人ダブルス 大内・尾形(2回戦敗退)
 - 第72回福島県総合体育大会卓球競技県北地区予選
 - 男子 個人シングルス 原田・小河源(2回戦敗退)
 - 女子 学校対抗 5位(県大会出場)
 - 個人シングルス 大内・寺嶋・植野(県大会出場)
 - 個人ダブルス 大内・尾形(県大会出場)
- ▼令和元年度全日本卓球選手権大会福島県予選
- 男子 ジュニアシングルス 大貫・町田(緒戦敗退)
 - 女子 ジュニアシングルス 植野(緒戦敗退)
 - ダブルス 尾形・植野ペア(県大会出場)
 - 混合ダブルス 大貫・尾形ペア(県大会出場)

尾形・植野ペア(緒戦敗退)
混合ダブルス

大貫・尾形ペア(緒戦敗退)

▼福島県高等学校新人体育大会
県北地区大会

男子

学校対抗 第7位(県大会出場)

個人シングルス

大貫・菅野・小野(県大会出場)

個人ダブルス

町田・佐々木ペア(県大会出場)

女子

個人シングルス

植野(県大会出場)

個人ダブルス

尾形・植野ペア(県大会出場)

▼福島県高等学校新人体育大会

男子

学校対抗

1回戦 3-1南会津

2回戦 0-3帝京安積

個人シングルス

小野(3回戦敗退)

菅野(2回戦敗退)

大貫(緒戦敗退)

個人ダブルス

佐々木・町田ペア(3回戦敗退)

女子

個人シングルス

植野(緒戦敗退)

個人ダブルス

尾形・植野ペア(緒戦敗退)

陸上競技部

▼福島県高等学校体育大会県北地

区予選会 ※入賞3位以内のみ
男子

400m 横山裕紀 第3位

500m 八巻伶門 第3位

110m H 根本祥希 第2位

400m H 山北大暉 第2位

走幅跳 早川瑛士 第3位

砲丸投 小野凌雅 第3位

1年3000m 遠藤混己 第3位

1年4×100m R 第3位

長澤・添田・遠藤・古川

女子

800m 嶺岸咲歩 第3位

1500m 佐藤美陽 第2位

3000m 松本怜美 第2位

2000m S C 眞壁ひとみ 第3位

▼福島県高等学校体育大会陸上
競技会 ※入賞8位以内

110m H 根本祥希 第3位

※東北大会出場

山北大暉 第6位

※東北大会出場

尾形優斗 第7位

400m H 山北大暉 第7位

ハンマー投 小野凌雅 第4位

※東北大会出場

▼福島県総合体育大会県北地区
予選会 ※入賞3位以内のみ

400m 塩見颯己 第1位

800m 鈴木 諒 第3位

男子

500m 八巻伶門 第2位

1000m 石井京輔 第3位

3000m S C 石井健暉 第3位

走高跳 守岡悠希 第3位

三段跳 尾形優斗 第2位

ハンマー投 小野凌雅 第3位

女子

800m 松本怜美 第1位

500m 八巻伶門 第1位

1000m 石井京輔 第3位

3000m S C 石井健暉 第3位

走高跳 守岡悠希 第3位

三段跳 尾形優斗 第2位

ハンマー投 小野凌雅 第3位

女子

800m 松本怜美 第1位

1500m 大内美怜 第3位

3000m 大内美怜 第2位

佐藤美陽 第3位

B 1500m 松本怜美 第2位

4×400m R 第1位

二瓶麻衣・服部尚美・大内

美怜・松本怜美

▼福島県総合体育大会陸上競技
会 ※入賞8位以内

110m H 根本祥希 第6位

ハンマー投 小野凌雅 第6位

▼福島県高等学校新人陸上大会県北
地区予選会 ※入賞3位以内のみ

800m 鈴木 諒 第2位

1500m 八巻伶門 第2位

500m 八巻伶門 第2位

石井京輔 第3位

110m H 根本祥希 第2位

400m H 大友温生 第3位

4×400m R 第3位

長澤・鈴木・添田・

根本祥希

男子

走幅跳 尾形優斗 第2位

三段跳 尾形優斗 第3位

女子

800m 松本怜美 第3位

1500m 松本怜美 第1位

▼福島県高等学校新人陸上大会
※入賞8位以内

走幅跳 尾形優斗 第2位

走幅跳 尾形優斗 第2位

三段跳 尾形優斗 第3位

女子

800m 松本怜美 第3位

1500m 松本怜美 第1位

▼福島県高等学校新人陸上大会
※入賞8位以内

800m 鈴木 諒 第6位

110m H 根本祥希 第3位

※東北大会出場

走幅跳 尾形優斗 第5位

三段跳 尾形優斗 第7位

混成 守岡悠希 第6位

女子

1500m 松本怜美 第8位

▼福島県高等学校駅伝競走大会

男子 第6位

八巻伶門・森大翔・石井京

輔・宍戸智紀・鈴木諒・高

橋拓也・遠藤混己

女子 第8位

佐藤美陽・嶺岸咲歩・松本

怜美・渡邊綾子・大内美怜

▼福島県高等学校総合体育大会

県北地区予選

男子

予選トーナメント

福島東80-59福島明成

福島東55-90福島南

出場決定トーナメント

福島東122-20福島北

福島東87-65安達

女子

予選トーナメント

福島東27-62福島南

県大会出場決定トーナメント

福島東55-60福島明成

女子

予選トーナメント

福島東27-62福島南

県大会出場決定トーナメント

福島東55-60福島明成

▼福島県高等学校総合体育大会

男子

1回戦 福島東66-57磐城

2回戦 福島東55-75郡山

▼福島県総合体育大会県北地区予選

男子

1回戦 福島東103-56二本松工業

準々決勝 福島東70-45福島成蹊

準決勝 福島東65-67福島

順位決定戦 福島東62-64福島商業

女子

1回戦 福島東54-71桜の聖母

▼福島県総合体育大会

男子

1回戦 福島東59-73日大東北

▼福島県高校バスケットボール

選手権大会県北地区予選

男子

予選トーナメント

福島東113-45二本松工業

福島東60-79福島工業

出場決定トーナメント

福島東87-72福島明成

女子

予選トーナメント

福島東109-29本宮

福島東36-96福島東稜

県大会出場決定トーナメント

福島東68-67安達

▼福島県高校バスケットボール選手権大会

男子
1 回戦 福島東78―65学法石川
2 回戦 福島東68―95いわき総合
女子
1 回戦 福島東13―146郡山商業

バレーボール部

▼福島県高等学校体育大会県北地区大会
男子
予選リーグ
福島東2―0福島北
福島東0―2福島工業
ブロック2位

決勝リーグ

福島東2―0学法福島
福島東2―0福島
福島東1―2保原
福島東0―2福島商業
10チーム中第4位

女子
14チーム中13位

▼福島県高等学校体育大会

男子
第1回戦 福島東2―0相馬農業
第2回戦 福島東2―0田村
ベスト16

▼福島県総合体育大会県北地区大会

男子
予選リーグ
福島東2―0聖光学院
福島東2―0福島
ブロック1位

上位リーグ

福島東0―2福島工業
福島東0―2保原
9チーム中第3位

女子
予選敗退

▼福島県総合体育大会

男子
第1回戦 福島東0―2郡山
県北地区1年生大会

男子
第1回戦 福島東0―2福島
3位決定戦 福島東2―0福島西
第3位

▼県北地区高等学校バレーボール秋季選手権大会

男子
予選リーグ
福島東2―0福島北
福島東0―2学法福島
福島東0―2福島工業
ブロック3位

順位決定リーグ

福島東2―0福島西
福島東2―0聖光学院
11チーム中第7位

女子
予選ブロック

福島東2―0福島西
福島東2―0福島北
順位決定トーナメント
福島東0―2成蹊
14チーム中4位

テニス部

▼福島県春季ジュニアダブルス
テニス選手権大会(4月13日)
森合庭球場
男子18歳以下
2 回戦敗退

女子18歳以下
松崎慧・藤田真一路

2 回戦敗退

尾形汐理・亀田有咲

▼福島県春季ジュニアシングルス

ステニス選手権大会(4月20日) 会津総合運動公園
男子18歳以下
2 回戦敗退 安田宏大

▼福島県高等学校総合体育大会

県北地区大会(5月11日) 13日) 森合庭球場
男子
学校対抗 第5位
ダブルス
第7位 松崎慧・藤田真一路

女子

学校対抗 第3位
ダブルス
第5位 尾形汐理・亀田有咲

▼福島県高等学校総合体育大会

県大会(6月1日) 3日) 会津総合運動公園
男子
学校対抗 ベスト16
ダブルス
2 回戦敗退
松崎慧・藤田真一路

女子

学校対抗 ベスト16
ダブルス
1 回戦敗退

尾形汐理・亀田有咲

▼福島県総合体育大会テニス競技

県北地区予選会(6月8日) 10日) 森合庭球場
男子
I部シングルス
第9位 丹治 陸
第12位 藤田真一路
第13位 松崎 慧
I部ダブルス
第5位 丹治陸・渋谷匠
第7位 松崎慧・藤田真一路
第8位 樺山岳大・高橋悠馬
第12位 門馬啓太・二瓶隼

女子

I部シングルス
2 回戦敗退 尾形汐理
1 回戦敗退 亀田有咲

II部シングルス

I部ダブルス
第3位 尾形汐理・亀田有咲
第11位 亀田有咲

▼福島県総合体育大会テニス競技

県大会(7月5日) 8日) 平
男子
I部シングルス
2 回戦敗退 丹治 陸

1 回戦敗退 藤田真一路
松崎 慧

I部ダブルス
3 回戦敗退

丹治陸・渋谷匠
樺山岳大・高橋悠馬

1 回戦敗退
松崎慧・藤田真一路
門馬啓太・二瓶隼

II部シングルス
2 回戦敗退 大出和樹

II部ダブルス
1 回戦敗退
大出和樹・安斎晃成

女子

I部シングルス
1 回戦敗退 尾形汐理
2 回戦敗退 亀田有咲

I部ダブルス
2 回戦敗退

II部シングルス
2 回戦敗退 白坂琉音
1 回戦敗退 小野 葵
II部ダブルス
2 回戦敗退
白坂琉音・小野葵

▼第11回会津フェスティバル(8月19日) 20日) 会津総合運動公園

男子
学校対抗 第4位

女子

学校対抗 第5位
福島県高等学校新人体育大会

県北地区大会(9月7日～10日)森合庭球場

男子

学校対抗(7人制) 第2位

シングルス

第3位 丹治 陸

女子

学校対抗(4人制) 第1位

シングルス

第2位 尾形汐里

▼第53回福島県高等学校新人体育大会県地区大会(10月4日～6日)郡山庭球場、牡丹台庭球場

男子

学校対抗(7人制) ベスト8

シングルス

1回戦 丹治 陸

女子

学校対抗(4人制) ベスト4

シングルス

3回戦 尾形汐里

柔道部

▼福島県高等学校体育大会県北地区大会

男子

団体 第5位

予選リーグ

福島東0―4 聖光

福島東0―3 福島北

5・6位決定戦

福島東3―1 保原

個人

73 kg級 第3位 宮崎滉誠

60 kg級 第1位 安齋憂輝

▼福島県高等学校体育大会

男子

団体

1回戦 福島東0―5 相馬東

個人 すべて1回戦敗退

▼福島県総合体育大会県北地区大会

少年男子

先鋒の部

第2位 佐久間颯大

次鋒の部

第3位 宮崎滉誠

▼福島県総合体育大会県大会

少年男子

すべて1―2回戦敗退

▼福島県高等学校新人体育大会

県北予選

男子

団体 第3位

個人

60 kg級 第1位 佐久間颯大

73 kg級 第1位 宮崎滉誠

81 kg級 第2位 鈴木健太

▼福島県高等学校新人体育大会

男子

団体 1回戦敗退

個人

73 kg級 ベスト8 鈴木健太

剣道部

▼第15回謙信公杯争奪高等学校剣道大会(上越市剣道連盟主催)

男子団体戦 準優勝

※長野、山梨、新潟、秋田、福島各県より138チーム参加

1回戦 上伊那農業高校(長野県)

2(4)―1(1)

2回戦 飯田高校(長野県)

3(5)―0(0)

3回戦 甲府工業高校(山梨県)

2(3)―1(3)

4回戦 本庄高校(秋田県)

1(3)―0(2)

5回戦 新潟第一高校(新潟県)

3(4)―2(4)

準決勝 磐城桜ヶ丘高校(福島県)

2(4)―1(1)

決勝 池新田高校(静岡県)

0(0)―3(5)

女子団体戦

1回戦 石川県立工業高校(石川県)

0(0)―3(5)

▼福島県高等学校体育大会県北地区大会

男子団体戦 4位(県大会出場)

女子団体戦 6位(県大会出場)

※女子は5人制の団体戦に4名で出場。

男子個人戦

七宮 諒 12位

立子山新太 16位

女子個人戦

齋藤智花 ベスト8

加藤咲月 10位

以上県大会出場

▼福島県高等学校体育大会

男子団体戦 ベスト8

1回戦 シード

は取得本数

2回戦(対 若松商業高校)

3(1)―1(1) 勝

3回戦(対 安積高校)

1(1)―1(1) 代表戦勝

準々決勝(対 平工業高校)

0(1)―3(5)

女子団体戦

1回戦(対 白河旭高校)

1(1)―2(3)

男子個人戦

七宮諒、立子山新太ともに

1回戦敗退

加藤咲月 1回戦敗退

齋藤智花 ベスト16

▼第72回福島県総合体育大会県北地区大会

男子団体戦 第3位(県大会出場)

女子団体戦 第6位

男子個人戦

立子山新太、西館拓摩、相馬柁太 ベスト16

女子個人戦

加藤咲月 第3位

齋藤智花 第4位

▼第72回福島県総合体育大会県大会

男子団体戦

1回戦(対 郡山高校)

3(5)―0(3)

2回戦(対 安積高校)

1(2)―3(5) ベスト16

女子個人戦

加藤咲月、齋藤智花

2回戦敗退 ベスト16

▼第16回日本海旗争奪高等学校剣道大会

男子団体戦

1回戦(対 船橋北高校(千葉))

不戦勝ち

2回戦(対 庄内農業高校(山形))

1(1)―2(2)

▼第20回秋季高等学校剣道錬成大会

男子団体戦

1回戦(対 青森山田高校(青森))

2(3)―0(1)

2回戦(対 酒田光陵高校(山形))

0(0)―3(4)

▼福島県高等学校新人体育大会

県北地区大会

男子団体戦 第6位

男子個人戦

西館拓摩 第3位

相馬柁太 ベスト8

立子山新太 ベスト16

以上県大会出場

女子個人戦

齋藤智花 第1位

齋藤美咲 ベスト16

以上県大会出場

▼福島県新人体育大会剣道競技

県大会

男子団体戦

1回戦(対 安積高校)

1(1)―0(0)

2回戦(対 尚志高校)

4(7)―0(1)

3回戦(対 聖光学院高校)

1(3)―3(5) ベスト8
男子個人戦
西館拓摩 第3位
相馬柗太 ベスト8
以上大会優秀選手賞受賞
立子山新太 2回戦敗退
女子個人戦
齋藤智花、齋藤美咲 2回戦敗退

ハンドボール部
▼第70回福島県春季ハンドボール選手権大会(4月19日～21日)
2回戦 須賀川高校26―17
3回戦 帝京安積高校19―23
【最終順位】ベスト8

▼第65回福島県高等学校体育大会ハンドボール競技東北地区大会(5月11日～13日)
予選トーナメント1回戦 本宮高校36―9
予選トーナメント2回戦 福島工業高校11―29
決勝トーナメント1回戦 川俣高校29―22
決勝トーナメント2回戦 聖光学院高校21―28
3位決定戦 福島高校35―15
【最終順位】第3位

▼第65回福島県高等学校体育大会ハンドボール競技(6月1日～3日)
1回戦 安積黎明津高校38―12
2回戦 南会津高校26―18
3回戦 学法石川高校18―28

【最終順位】ベスト8
▼第72回福島県総合体育大会県北地区大会(6月8日～10日)
Bブロックトーナメント
1回戦 福島商業高校31―23
2回戦 福島工業高校17―29
決勝トーナメント
1回戦 福島商業高校33―22
準決勝 聖光学院高校20―18
決勝 福島工業高校14―15
【最終順位】第2位

▼第72回福島県総合体育大会県大会(7月5日～7日)
1回戦 尚志高校32―17
2回戦 南会津高校29―28
準決勝 学法石川6―30
【最終順位】第3位

▼第6回東北地区高等学校秋季ハンドボール選手権大会(9月7日～8日)
1回戦 福島商業高校23―22
2回戦 福島北高校28―21
決勝トーナメント
準決勝 川俣高校33―25
決勝 福島工業高校17―27
【最終順位】第2位

▼第56回東北総合ハンドボール選手権大会福島県予選会(9月21日～22日)
1回戦 信夫クラブ20―31
▼第54回東北地区高等学校新人ハンドボール選手権大会(10月26日～27日)
1回戦 福島西高校33―16

2回戦 本宮高校38―15
3回戦 聖光学院高校19―21
準決勝 福島工業高校12―19
3位決定戦 福島商業高校25―15
【最終順位】第3位

▼令和元年度福島県高等学校新人体育大会ハンドボール競技(11月15日～17日)
1回戦 日大東北高校23―20
2回戦 平工業高校27―31
【最終順位】ベスト16

水泳部
▼第65回福島県高等学校体育大会県北地区大会水泳競技(森合市民プール)
男子
100m背泳ぎ 1位 岡部理玖
200m背泳ぎ 2位 岡部理玖
100m平泳ぎ 1位 齋藤優斗
200m平泳ぎ 1位 齋藤優斗
400mメドレーリレー 3位 齋藤・日地谷・岡部・菅谷
女子
50m自由形 2位 遠藤あゆみ
200m自由形 2位 小野琴葉
100mバタフライ 3位 小野琴葉

▼第65回福島県高等学校体育大会水泳競技郡山しんきん開成山プール
男子
100m平泳ぎ 7位 齋藤優斗
200m平泳ぎ 4位 齋藤優斗
女子
200m平泳ぎ 4位 齋藤優斗
東北大会出場権獲得

200m自由形 7位 小野琴葉
東北大会出場権獲得
▼第74回東北水泳大会(郡山しんきん開成山プール)
男子
100m平泳ぎ・200m平泳ぎ出場 齋藤優斗
女子
200m自由形出場 小野琴葉

▼第72回福島県総合体育大会水泳(競泳)競技大会(会津水泳場)
男子
200m平泳ぎ 4位 齋藤優斗
200m背泳ぎ 8位 岡部理玖
100m背泳ぎ 6位 岡部理玖
50m背泳ぎ 3位 岡部理玖

▼第54回福島県高等学校新人体育大会水泳競技大会(郡山しんきん開成山プール)
男子
100m平泳ぎ 5位 齋藤優斗
200m平泳ぎ 8位 齋藤優斗
100m背泳ぎ 7位 岡部理玖
200m背泳ぎ 8位 岡部理玖
女子
50m自由形 7位 遠藤あゆみ

山岳部
▼第65回福島県高等学校体育大会登山大会(安達太良連峰)
優秀パーティー/福島東A
パーティー/福島東B
ティ(2～6位入賞に相当)
ソフトボール部
(女子:人数不足のため東高校単

独で出場できず、北高校・南高校と3校合同で出場)
▼第68回福島県高等学校女子春季選抜ソフトボール大会県北・相双地区大会
予選リーグ
第1戦 4―19福島東稜
(4月20日 十六沼運動公園)
同第2戦 3―15福島西
(4月20日 十六沼運動公園)
6位・7位決定戦 4―12相馬東
(4月21日 伊達市月館運動公園)
結果:地区6位で終了

▼第41回福島県高等学校春季選抜ソフトボール大会
男子
準決勝 13―10須賀川
(4月28日 クリスタルパーク石川)
決勝 1―8郡山北工
(4月28日 クリスタルパーク石川)
結果:準優勝

▼令和元年度福島県高等学校体育大会ソフトボール競技東北地区大会
女子
予選リーグ第1戦
4―12福島成蹊
(5月11日 伊達市月館運動公園)
同第2戦
3―8福島西(5月12日同上)
順位決定戦
13―4福島明成(5月13日同上)
8―5福島(5月13日同上)
結果:地区5位

▼第65回福島県高等学校体育大会

会ソフトボール競技

男子

1 回戦(予選リーグ)

2-0 相馬

(6月1日 桑折町民運動場)

2 回戦(予選リーグ)

5-4 安積黎明

(6月1日 桑折町民運動場)

準決勝 8-2 須賀川

(6月2日 土六沼公園スポーツ広場)

決勝 4-2 郡山北工

(6月3日 土六沼公園スポーツ広場)

結 果：優勝

(東北大会・全国大会進出)

女子

1 回戦 7-9 磐城農業高校

(6月1日 十六沼運動公園)

結 果：1 回戦負け

▼第45回男子東北高等学校ソフトボール選手権大会

1 回戦 0-3 仙台第一(宮城)

(6月15日 石鳥谷ふれあい

運動公園・花巻市)

▼第72回福島県総合体育大会ソフトボール競技

男子

準決勝 1-13 須賀川

(7月6日 クリスタルパーク石川)

結 果：第3位

▼令和元年全国高等学校総合体育大会ソフトボール競技大会

男子

1 回戦 0-4 徳山高校(山口)

(8月7日 お倉ヶ浜総合公

園運動場〔宮崎県日向市〕

結 果：1 回戦敗退

▼第68回福島県高等学校新人体育大会ソフトボール競技県

北・相双地区大会

女子

リーグ戦 0-7 福島成蹊

(9月7日 伊達市月館運動公園)

4-11 福島福馬(9月8日同上)

12-3 福島明成(9月8日同上)

5-7 位決定戦

2-13 相馬東(9月9日同上)

結 果：地区6位

▼令和元年度福島県高等学校新人体育大会ソフトボール競技

男子

1 回戦 7-0 安積黎明

(10月14日 クリスタルパーク石川)

準決勝 0-7 郡山北工

結 果：第3位

1 回戦 0-7 いわき光洋

(10月14日 玉川村民グラウンド)

結 果：1 回戦負け

▼福島県高等学校体育大会県北

バドミントン部

地区大会

男子

学校対抗 第7位(県大会出場)

個人シングルス

菅野 稜 第9位(県大会出場)

個人ダブルス

佐々木(雅)・佐藤

関口・菅野

高野・佐々木(凌) 第9位

(県大会出場)

女子

個人シングルス

服部愛美 第9位(県大会出場)

個人ダブルス

野田・服部 第9位

(県大会出場)

▼福島県高等学校体育大会県大会

男子

学校対抗

1 回戦 0-3 ふたば未来学園

個人シングルス

菅野 稜 緒戦敗退

個人ダブルス

関口・菅野 2 回戦進出

佐々木(雅)・佐藤

高野・佐々木(凌) 緒戦敗退

女子

個人シングルス

服部愛美 2 回戦進出

個人ダブルス

大内・尾形 緒戦敗退

▼第72回福島県総合体育大会バドミントン競技県北地区予選

女子

シングルス

服部愛美

菅野帆奏 第9位(県大会出場)

ダブルス

服部・菅野 第17位

(県大会出場)

▼第72回福島県総合体育大会卓

球競技県大会

女子

シングルス

服部愛美

菅野帆奏 緒戦敗退

ダブルス

服部・菅野 2 回戦進出

▼福島県高等学校新人体育大会

県北地区大会

男子

学校対抗 第5位(県大会出場)

シングルス

高橋伊吹 第9位(県大会出場)

ダブルス

藤林・高橋 第16位

(県大会出場)

女子

学校対抗 第5位(県大会出場)

シングルス

服部愛美 第5位(県大会出場)

ダブルス

服部・菅野 準優勝

(県大会出場)

▼第72回福島県総合バドミントン選

手権大会

女子

ダブルス

服部・菅野 緒戦敗退

シングルス

服部愛美

菅野帆奏 初戦敗退

弓道部

▼平成31年度福島県春季弓道大会

(4月13日 郡山市開成山弓道場)

男子団体 第3位

八巻陸、渡邊匠瑛、渡邊英

哉、鈴木正春、佐々木稜、

成田亮斗、小山翔人

女子団体 第4位

山田奈々、岩井わか菜、加

藤凜、梅津朱花、佐藤希、

鈴木綾、二瓶梨沙子

男子個人

第3位 渡邊匠瑛

女子個人

第3位 岩井わか菜

▼第22回福島県弓道遠の選手権

大会(4月20日 郡山市開成山

弓道場)

男子個人

第2位 渡邊匠瑛

女子個人

第1位 加藤 凜

▼令和元年度高校総体県北地区大

会(5月11日、12日 福島明成高校)

男子団体 第3位

金戸怜優、成田亮斗、渡邊

英哉、半澤翔太、鈴木正春、

渡邊匠瑛、佐々木稜

女子団体 第5位

岩井わか菜、千葉緋里、横

山幸穂、鈴木綾、加藤凜、

佐藤希、二瓶梨沙子

女子個人

第2位 岩井わか菜

▼第65回福島県高校総体県大会

(6月1日、3日 郡山市開成

山弓道場)

女子個人

第2位 岩井わか菜

※全国出場

▼第72回福島県総合体育大会県北地区予選会(6月15日～16日福島明成高校弓道場)

男子団体 第4位

金戸怜優、早川広海、八巻陸

女子団体 第4位

加藤凜、千葉緋里、佐藤希

女子個人

第4位 岩井わか菜

県大会 千葉緋里

▼第49回東北高等学校弓道選手権大会(6月21日～23日秋田県立武道館弓道場)

女子個人

第1位 岩井わか菜

▼令和元年度全国高等学校総合体育大会弓道競技(8月6日宮崎県早水公園体育文化センター特設アリーナ)

女子個人

決勝進出 岩井わか菜

▼令和元年度福島県弓道新人大会県北地区予選会(9月21日～22日福島明成高校弓道場)

女子団体 第4位

加藤凜、鈴木綾、佐藤希、梅津朱花、千葉緋里、山田

奈々、二瓶梨紗子

▼令和元年度福島県高等学校新人体育大会弓道競技(10月17日～18日開成山弓道場)

男子個人

決勝進出 新岡大輔

女子団体 ベスト8

加藤凜、鈴木綾、梅津朱花、二瓶梨紗子、千葉緋里、山田奈々、若松紗也

▼第38回全国高等学校弓道選抜大会(11月3日NCVふくしまアリーナ)

女子団体 第8位

山田奈々、二瓶梨紗子、千葉緋里、若松紗也

▼第12回日本高校ダンス部選手権新人戦参加3月26日

▼第13回ダンス部発表会7月26日

▼第12回日本高校ダンス部選手権バトルーナメント東日本大会参加12月26日

▼第12回日本高校ダンス部選手権新人戦参加3月26日

●文化部

合唱部

▼県北地区音楽祭参加(5月31日 福島市音楽堂)

▼県音楽学習発表会参加(6月19日 いわき市アリオス)

▼第17回定期演奏会(8月13日 福島市音楽堂)

▼福島県合唱コンクール参加(8月30日 とうほう・みんなの文化センター)

吹奏楽部

▼第36回定期演奏会開催(5月 とうほう・みんなの文化センター)

▼吹奏楽コンクール県北大金賞(7月 とうほう・みんなの文化センター)

▼吹奏楽コンクール県大会銀賞(7月 郡山市民文化センター)

▼県北地区音楽祭参加(5月 福島市音楽堂)

▼県音楽学習発表会参加(6月 いわき文化芸術交流館アリオス)

▼吹奏楽コンクール県北大金賞(7月 とうほう・みんなの文化センター)

▼吹奏楽コンクール県大会銀賞(7月 郡山市民文化センター)

個人賞
たなばた賞
3年 石川なるみ

銀河賞
2年 高橋愛実

奨励賞
3年 菅野晴奈

団体賞 優秀学校賞

▼第53回福島市民美術展覧会
青少年奨励賞

3年 石川なるみ

▼第38回福島県高等学校総合文化祭書道展

全国総文祭(高知県)出場権獲得 2年 佐藤ひなた

特別賞 3年 石川なるみ

▼第43回福島県書道連盟選抜展
個人賞

準大賞 3年 石川なるみ

特選 2年 佐藤ひなた

秀作 2年 菅野晴奈

2年 高橋愛実

2年 吉田陽菜子

2年 倉島彩乃

2年 齋藤朱夏

2年 馬場明里

2年 朝倉ちひろ

2年 高橋由華

2年 菅野晴奈

2年 高橋愛実

2年 吉田陽菜子

2年 倉島彩乃

2年 齋藤朱夏

2年 馬場明里

2年 朝倉ちひろ

2年 高橋由華

2年 菅野晴奈

2年 高橋愛実

2年 吉田陽菜子

2年 倉島彩乃

2年 齋藤朱夏

2年 馬場明里

2年 吉田陽菜子

2年 菊田真菜

2年 横山幸穂

1年 志賀大二郎

1年 遠藤瑠夏

2年 佐藤ひなた

2年 高橋愛実

2年 倉島彩乃

2年 齋藤朱夏

2年 朝倉ちひろ

2年 菅野晴奈

2年 高橋愛実

2年 吉田陽菜子

2年 倉島彩乃

2年 齋藤朱夏

2年 馬場明里

2年 朝倉ちひろ

2年 高橋由華

2年 菅野晴奈

2年 高橋愛実

2年 吉田陽菜子

2年 倉島彩乃

2年 齋藤朱夏

2年 馬場明里

2年 朝倉ちひろ

2年 高橋由華

2年 菅野晴奈

2年 高橋愛実

2年 吉田陽菜子

2年 倉島彩乃

2年 齋藤朱夏

2年 馬場明里

2年 朝倉ちひろ

2年 高橋由華

科学部

▼令和元年度「科学の甲子園」福島県大会

チーム「ALSPS(アルプス)」

総合競技の部 第1位

総合成績 第3位

▼令和元年度中学生・高校生の科学技術研究論文野口英世賞

高等学校共同研究の部 入選

「光条件の変化がネズミモチの陽葉と陰葉の気孔開度を与える影響について」

▼第38回福島県高等学校総合文化祭自然科学専門部第32回生徒理科研究発表会

生物部門 優秀賞

「植物の葉の気孔開度に関する研究」

▼県北地区高等学校演劇連盟春の発表会参加

「青色じゃない僕たちの春」(作:塚本千鈴)

▼県北地区高等学校演劇連盟春の発表会参加

「青色じゃない僕たちの春」(作:塚本千鈴)

▼県北地区高等学校演劇連盟春の発表会参加

「青色じゃない僕たちの春」(作:塚本千鈴)

▼県北地区高等学校演劇連盟春の発表会参加

「青色じゃない僕たちの春」(作:塚本千鈴)

▼県北地区高等学校演劇連盟春の発表会参加

「青色じゃない僕たちの春」(作:塚本千鈴)

▼県北地区高等学校演劇連盟春の発表会参加

福島東高校創立40周年記念事業

創立40周年を迎えた我が母校福島東高校は来年度、創立40周年記念事業を実施致します。

記念事業の概要は、40周年記念誌の発行、記念事業（体育館パイプ椅子購入）、生徒教職員記念品作成（マフラータオル）、記念式典・講演会を予定しております。

同窓会が40周年記念事業に大きく関わりながら東高を盛り上げていこうとしています。今まで以上に同窓生の皆様の御支援御協力をお願い致します。

なお、「東高応援基金」とは別に「創立40周年記念事業募金」を行います。同封の別紙を御参照の上、御協力を賜りますようお願い申し上げます。

～ 創立40周年記念式典の日程 ～

日時 令和2年10月10日（土）

場所 とうほう・みんなの文化センター（福島県文化センター）大ホール

記念式典 13:00～（予定）

記念講演会 15:00～（予定）

講師 齋正機様（日本画家 2期生）

なすび様（タレント・俳優 12期生）

司会 菅原美智子様（フリーアナウンサー、元ラジオ福島アナウンサー）

▼県北地区高等学校演劇連盟
秋のコンクール参加
「I make me」（作：渡邊大陸）
英語部

▼令和元年度第4回福島県高校生英語スピークト大会
第3位

▼令和元年度第4回福島県高校生英語スピークト大会
生英語スピークト大会
優秀ディベーター賞

第3位 1年 色摩奈々
放送委員会

▼令和元年度全国高等学校放送コンテスト東北相双大会（5月26日（日） 桜の聖母学院高等学校第1ホール）
朗読部門

1位 阿蘇あかり（県大会推薦）
アナウンス部門

1位 塚本千鈴（県大会推薦）

6位 古川百花（県大会推薦）
ラジオドラマ部門
1位 タイトル「王様ゲーム」（県大会推薦）
テレビドキュメント部門

2位 タイトル「たかが5分 されど5分」（県大会推薦）

▼第66回全国高校放送コンテスト福島県大会（6月7日と

うほう・みんなの文化センター（福島県文化センター）
朗読部門

優秀二席 阿蘇あかり
（全国大会出場）

アナウンス部門
優秀二席 塚本千鈴
（全国大会出場）

▼第66回NHK杯全国高校放送コンテスト（7月23日 国立オリンピック記念青少年総合センター）
朗読部門

阿蘇あかり（出場）
アナウンス部門

塚本千鈴（出場）

▼第43回全国高等学校総合文化祭（2019）が総文）放送部門（8月1日 佐賀県三養基郡基山町基山町民会館）
アナウンス部門

塚本千鈴（出場）

▼第24回福島県高校新人放送コンテスト
ラジオキャンペーン部門

黄昏夜行（東北大会推薦）

令和元年度（38期生） 部活動を終えて

生徒会

私はどうしても、仕事は人にお譲りするよりも自分でやってみようが早いと思ってしまう人間です。先輩方が引退してからはそう思うことが増えました。しかし、今自分が仕事ができるのは、間違いなく先輩方のおかげです。面倒くさがらず指導してくださったおかげです。また、先輩方は引退してからも私たちのことを気にかけて生徒会室に顔を出してくれたり、アドバイスをしてくださいました。公開文化祭準備の際には、回の公開文化祭時に生徒会で活動されていた三十五、六期生の先輩方が学校に来て、係ごとに細かくアドバイスをしてくださいました。私たちの学年とは直接関わりのない三十五期の先輩方が、卒業後も生徒会を気にかけて助けてくれることは、とても素敵なことです。私は先輩方から「引き継ぐ」ということを教わりました。（高橋颯馬）

野球部

私たち野球部は、秋の大会で敗れてから常に考えてプレーする課題として、練習に取り組みました。秋は、自分たちのミスが多く、改善する第一歩として自分のミスの原因はどこにあるのか理解することをテーマに練習しました。日々の練習で生まれるミスを自分で分析し、部員同士で意見交換をすることによって、常に考えながら自分のプレーと向き合うようになりました。さらに、次の試合に向けて、練習の雰囲気を変えて、部員全員の意識が高まりチームとしての成長につながりました。そして、最後の夏の大会では甲子園という目標には届きませんでした。秋に比べてチームが成長したことを実感できました。私たちは、この経験から考えて行動する大切さを学びました。高校野球を通して学んだことを今後の人生に生かしたいと思います。（佐藤颯汰）

サッカー部

私はサッカー部の主将を務めたことで大きく成長したことを

卓球部

私が部活動を通して学んだことは協力することと忍耐力の重要性です。

部活動で全員が集中して取り組める雰囲気づくりをするためには全員の協力が必要不可欠だ

実感しています。私たちの学年は、思うように結果が残せず、悩む時期が多くあり、私自身も、「自分がキャプテンでいいのか」と思うことがありました。仲間と必死に練習をしましたが、目標である「全国大会出場」は果たせませんでした。しかし、私たちは努力を怠ったわけではありませぬ。チームとして、個人として真剣に取り組んだ結果だと思っています。この三年間で、サッカーの楽しさや仲間の大切さだけでなく、目標を達成することが甘くないということを感じました。達成できなかった目標を受け継ぐ後輩には私たちよりもさらに覚悟をもってほしいです。

先生や家族にはとても感謝しています。これから様々な経験を積んでいくと思いますが、この感謝を忘れず、社会で活躍できる人間になりたいです。

(國井拓磨)

陸上競技部

と思いましたが。なぜなら高い集中力で練習をすることが競技力の向上につながるからです。それに加えて大会での応援は試合を有利に進める上で大切なことだと先輩方の試合に対する姿勢から学ぶことができました。そしてつらい練習や相手が有利な状況にある試合などでも諦めたりせず、耐えることで忍耐力を身につけていくことができたと思います。また、ここで培われた忍耐力は今後の生活にも生かされると思います。

これまで支えてくださった先生方や先輩方、ありがとうございます。

(佐藤優多)

私は部活動を通して多くのことを学びました。その中でも主に三つのことが自分を大きく成長させたと思います。

一つ目は継続することです。

陸上競技の練習は淡々としていてつらいメニューが多いのですが、その練習があったからこそ記録を伸ばすことができました。

二つ目は団結することの大切さです。陸上競技はほとんど個人競技ですが、練習から試合まで選手同士やマネージャーの協力が不可欠な部活だと思いま

す。そのため普段からチームでのコミュニケーションを大切にしていました。

三つ目は一つの事をやり遂げることです。つらい練習の時は自分の弱い部分に打ち勝ってやり通すことで成長することができました。

最後に部活動を支えてくださった保護者の方々、OB・OGの方々、指導してくださった先生方に深く感謝申し上げます。

(横山裕紀)

男子バスケットボール部

私たち男子バスケットボール部は、部活動を通して、一人ひとりの意思の疎通の重要性や周りの状況から判断して自ら行動を起こす主体性の大切さを学ぶことができました。

日々の練習の中で部員全員が同じ目標を持ち、部全体としてより高いレベルのステージに立てるように集中して取り組むようにはしてきました。そして、毎日そのようにして取り組んできたことよって、声を出し、活発にコミュニケーションをとることの大切さに気づかされました。また、周りの意思と自分の意思とを簡単に同調させずに、自ら判断して行動することが部

活動としてだけではなく、社会に出た後でも必要なことだと学ぶことができました。

三年間の部活動でたくさんの方を教わり、それを身につけることができました。今後の生活にも活用していきたいです。

(丹治大和)

女子バスケットボール部

私が部活動を通して学んだことは、継続して努力することの大切さです。人数が少なく交代する人もいない状態で入学当初は、チームの足を引っぱってばかりいました。ですが、姿勢の悪さや周りが見えていないことなどの欠点に気付き、練習はもろろん、自主練や筋トレでも自分を追い込み取り組みました。成果が出るまで時間がかかり、その間は辛かったのですが、仲間の助けもあり、自分でも驚くぐらいに二年でプレーが変わったと思います。

塵も積もれば山となる。毎日少しずつの努力ですが、継続することでプレーもバスケットボールに対する思いも二年で大きく変わりました。これからの生活で、さらにもっと乗り越えていかなければならないことがあると思います。その時でも決

してあきらめることなく結果が実ることを信じて努力を重ねていきたいです。

(佐藤和佳奈)

男子バレーボール部

部活動を通して私は助け合いと仲間の大切さを学びました。

私が上手く皆を引っ張ることができていないと感じ、悩んでいた時、仲間の一人が自分だけで苦しむ必要はないよと言ってくれて、他の仲間も積極的に協力してくれるようになりました。自分一人では乗り越えられないと思うようなことも、仲間たちがいたから頑張ることができたのだと思います。将来、また何かに挑戦する時は自分とともに頑張ってくれる仲間や友人、家族のことを大切にしたいと思っています。そのように助け合いながら、お互い辛いことや困難を乗り越えて、目標に向かい努力することが重要であり、生きてゆく上で必要であると思っ

たからです。

部活動で得た教訓や、顧問の先生方から言われた言葉、思い出はおそらく一生心に残っていると思います。それらを糧としてこれからも努力していこうと思います。

(石添優人)

女子バレーボール部

私は部活動を通して、責任を持って行動することの意味、そして仲間の大切さを学びました。新チーム当初は部員が六名で、一人でも欠ければ試合に出場できなくなってしまう状況で、全員が理解しており、チーム全体で緊張感を持って、互いに注意を払いながら活動しました。その結果、誰一人大きな怪我をすることなく全ての大会に臨むことができました。

また、コートの中では常にコミュニケーションを取ることを心がけてきました。話すことによってチームの中の約束事ができ、その約束を守るために全員でフォローし合い、アドバイスしながら練習に取り組みました。それにより一人一人のプレーに変化が表れ、試合を重ねる度にチーム全体の成長を実感できました。

このチームで精神力を養い、学んだことを忘れず、今後の生活に活かしていきたいです。
(高橋柚李)

男子テニス部

僕が部長として部活をまとめたい中では学んだことは、チー

ムで一つになって活動することの大切さです。

僕の代は、高校から硬式テニスを始める人がほとんどで、今までの先輩方に比べ、実力的に十分ではありませんでした。だから、どうしても先輩方のレベルに近づけるかを考え、一か月に一度ミーティングを開き、全員でチームの改善点を話し合うことにしました。何をやるべきかを理解することで力もついてきて、大会で入賞することができるようになりました。

残念ながら上位入賞はできませんでしたが、最後までチーム一丸となってプレイできたことを誇りに思います。東高校のテニス部に入って、本当に良かったです。
(安田宏大)

女子テニス部

私は部活動を通して、チームワークと忍耐力を学びました。一年生の時の部活動のスケジュールは、挑戦のOne for All、All for Oneでした。一人一人がチームのためや勝利のために明確な目標を持ち、練習を重ねていきました。多忙な日々の中で練習を続けられたのは一つのチームであるという意識や辛くても諦めないという気持ちがあったか

らだと思えます。私は先輩方から技術的な面だけでなく、練習が大変でも毎日積み重ねていくという忍耐力の大切さを学びました。そして二年生となり、チームの中心として後輩をリードする立場になってからは、基礎の練習だけでなく、毎日休まず練習を重ねていくという姿勢で部活動に臨みました。

私が三年間部活動を続けられたのは周りの人の支えがあったからだと思えます。感謝の心を忘れず学んだことを活かしたいです。
(立谷美羽)

ハンドボール部

私は部活動を通して、やはり礼儀は大切であると感じました。例えば、挨拶や返事、言葉遣いです。これがしっかり出来ないと、自分一人だけでなく、所属している団体がだらしない見えるだけでなく、相手への敬意が感じられません。

普段の生活においても同じです。礼儀の中でも特に大事なことは、相手の立場になって考えること、気を配ることです。自分が何かをやっている時や話している時、相手が何をしようとしているのか、何が言われたら嫌なのかを考えることで不愉快

な思いをさせなくなります。気配りに関しては、過剰であると逆に相手に気を遣わせたり、自分も疲れてしまいます。しかし、全く気を配らないのは良くありません。適度な気配りが重要です。

これらのことを忘れず、今ある環境に感謝し、何事にも感謝の気持ちを持ってこれからの生活を送りたいと思います。
(西山琳南)

ソフトボール部

私はソフトボールを通じて「欲を捨てることの重要性」を学びました。

「淡々とプレーしろ。これは監督の重川先生が選手全員に幾度となくかけてきた言葉です。それから私達は練習中も、試合中も欲は出さずに目の前のボールに集中することを心がけてきました。日々の反復練習と淡々とやるチームプレーが徹底できたことで、最後の県大会では優勝することができ、十九年ぶりのインターハイに出場しました。戦力差が大きいチームに勝つたのも一球一球を確実に対処する東高ソフト部のプレーがあつての結果だと思えます。

私は三年間の部活動を経て学

んだことをこれからの生活や受験に活かしていきたいと考えています。東高ソフト部は今、新チームとして活動しています。まだまだ未熟なチームですが、応援よろしくお願いします。
(狗飼怜史)

男子バドミントン部

私が部活動を通して学んだことは、自分で考えることだと思います。

バドミントン部は男女合わせて約四十名所属しその人数で少ないコートを使わなければいけなかったのですが、どうすれば効率よく練習することができるか、どうすればより効果的な練習になるのかを考えて練習することができました。また、試合でも部員それぞれがどんなプレーがしたいかを考え、ペア同士で話し合うことで互いの技術を向上させ、目標であった県大会出場を果たすことができました。

高校を卒業し社会に出れば今よりも自分だけでやらなければならぬ事は遙かに多くなると思えます。だから部活動三年間で学んだことを活かし、今自分は何をするべきかを考えて生活していきたいと思えます。
(佐々木雅也)

女子バドミントン部

私が部活動を通して学んだことは、日々努力を積み重ねることの大切さです。

入部して一年が経った頃に私を驚かせたことは、同級生の目覚ましい成長でした。高校で一からバドミントンを始めた人達ばかりの集団とは思えないほど部全体の実力が上がっていることを、その時強く感じました。

部員達の、どんな時も向上心と高い目標を持って自分の弱点から逃げずに立ち向かう姿や、

アドバイスを真摯に受け止め練習に取り入れるなど、互いに協力し助け合う姿から、強い志と協調性を持つことの大切さを学びました。

かけがえない仲間達と出会い、部活動を通して成長することができたことは私の一生の財産です。これからの自分の将来に少しでも役立てていきたいと思っています。
(菅野愛由里)

柔道部

私たち柔道部は、日々の稽古から先輩たちに組手や技術面等を学びました。特に受け方は、怪我を防ぐためにも必要ですが、受ける人が圧をかけていな

い、または、相手が何をするのか考えたり、意識をしなければ、その選手自身を弱くするだけでなく、他の選手も巻き込み怪我の発生など悪循環が起りま

できました。二つ目は先生方や先輩方との接し方です。いつも丁寧に指導して下さる先生方や先輩方との接し方は日常生活でも役に立つものであり、先輩に指導する時にどのように伝えればわかりやすいかなどの思いやりの心を持って接することの大切さを学ぶことができました。

中で迷って自分を見失いそうになったとき、自分の役割を意識すると、自分と別の役割を担っている誰かがいることを思い出させてくれ冷静になれます。迷ったときに何をすればいいかを教わりました。

私は、先輩方から仲間のため

剣道部

私は、三年間の部活を通して同級生や先輩方、後輩と一緒に練習をしたり、大会に出場する中で多くのことを学ぶことができました。

一つ目は仲間の大切さです。一つの目標に向かってお互い良い点も悪い点もよく理解し合う事で信頼関係を築き、高め合うことのすばらしさを知ることが

二つ目は、自分の役割を意識することです。集団に身を置く

私に、先輩方から仲間のため

弓道部

最後に、用具の整備や良好な環境、サポートをしてくれる両親や先生、共に稽古してきた先輩たちに、感謝の気持ちを忘れず、これからも目標達成のために日々切磋琢磨していきます。
(安齋憂輝)

弓道部は今年度より長年ご指導頂いた前顧問の千葉先生から羽田先生、荒川先生、渡邊先生に変わり新体制となりました。

二つ目は、計画を立てて行動

私に、先輩方から仲間のため

山岳部

僕たちが部活動を通して学んだことは三つあります。

一つ目は意思疎通の大切さです。山岳の大会では仲間との情報の共有がとても重要になっていきます。素早く、わかりやすく、確実に共有する方法を学べたと思います。

私に、先輩方から仲間のため

水泳部

私のことを教えてもらい、とても感謝しています。部活動で学んだことを活かし、これからはがんばりたいと思います。
(樋口光希)

一つ目は仲間の大切さです。一つの目標に向かってお互い良い点も悪い点もよく理解し合う事で信頼関係を築き、高め合うことのすばらしさを知ることが

二つ目は、自分の役割を意識することです。集団に身を置く

私に、先輩方から仲間のため

私に、先輩方から仲間のため

ダンス部

私はダンス部に入り、普通の高校生活では得られないような多くの経験をj得ることができました。

まず、ダンスはスポーツとは違い明確には何が良くて何が悪いかわかりにくい競技です。なので、部員一人一人が違う考えを持っており、そのお互いの考えを尊重しながら、部全体としてどう進んでいくのかということが部活として重要なことでした。このようなことを通して、自分と他の人の違いを知り、他人に敬意を持って接するようになりました。

次に、ダンス部として活動していく中で小学生から社会人まで様々な年齢の方々や、イベントの運営さんなど数多くの人と関わる機会がありました。そのおかげで、「高校」に縛られない広い視野を持てるようになったと思います。

これ以外にもたくさんjの経験をさせてもらい、人間として大きく成長できたと思います。

(穂積里紀)

吹奏楽部

私達吹奏楽部は部員同士で話

し合って運営することが多く、時には意見が衝突してしまうこともありました。けれども三年間を通して、偶然が積み重なって出会えた仲間と音楽を創ることのできる幸せや限りある時間jの大切さ、時にはぶつかり合っjても直接話し合うことの大切さに気づかされました。色々ありましたが、一緒に活動した仲間jはかけがえのない大切な存在です。

また私達の活動は、顧問の先生をはじめとする東高校の先生方、保護者・地域の皆様など沢山の方々のおかげで成り立っています。私達は自分たちの恵まれた環境を体感したことによっjて、感謝の心を持ち、それを言葉にすること、日常生活でも責任と自覚のある行動をすることjの大切さを学びました。

これから先もこの部活動で学んだことを忘れず、福島東高校吹奏楽部員としての誇りを持って、立派に成長していきたいと思っjています。(森田まつり)

合唱部

私は部活動を通して、何事も諦めずに取り組むことの大切さを学びました。

私は入部当初、合唱が未経験

だったため、周りと比べると技術や声量もなく下手でした。しかし、先生や先輩方に指導して頂く中で言われたアドバイスを意識し、練習に取り組んでいくことで少しずつ上達することができました。また、上達していくことで歌うことの楽しさを知ることができました。

三年間の部活動を振り返ると、思うように歌えず部活が嫌になることもありましたが、しかし、その時に諦めずに取り組んだことで、上達することができたと思います。私は今後この経験を活かし、壁にぶつかるとようなことがあっても、諦めずに物事に取り組んでいきたいと思っjいます。(今井麻奈)

美術部

私が部活動を通して学んだこと、教えられたことは数多くあります。その中の一つとして、『最後まで手を抜かず、最善を尽くすことの大切さ』があります。私は美術部員として活動してきた三年間jの中で多くの作品を制作してきました。特に油絵の大作は、約三ヶ月間という長い時間をかけて制作し、締切の直前まで、どう描いたらよ

りか、表現できるか、見る人の心を惹き付けられるかを考えました。その結果、自分の納得のいく作品に仕上げることができ、受賞することもできました。また、さまざまな芸術作品に触れたことで、人それぞれの視点の違いや、個性の魅力も学ぶことができました。

私は、美術部で学んだことを活かし、これからも芸術や文化に触れながらより充実した人生を送っていききたいと思っjいます。(佐藤澄門)

写真部

写真部では日々の生活を通してそれぞれが技術の向上にむけて活動してきました。中学校にはなかった写真部で、初めて「作品を作る」という意識をもって被写体に向きあい、撮影しました。日常の風景や学校行事などで自主的にカメラを持ち出し、思い描く画が撮れるよう様々な工夫をし、納得いく作品になるまで何ども挑戦しました。

また、毎年七月に行われる県北地区の高校写真部の講習会では、普段撮れない場所での撮影会や写真家の方の撮影テクニック講習会を受けることによっjて、それまで持っていた疑問を

解決し、作品創りのステップアップのコツをつかむことが出来ました。

この高校生活の記録を取めた写真は、一つとして同じものはないかけがえのない記録となり、大切な思い出へとなると思っjいます。(佐藤壮志)

科学部

科学部の部員として、部長として活動してきた中で、私は多くのことを学ぶことが出来ました。その内の二つを紹介します。一つは、次に繋ぐ、後輩に繋ぐ大切さです。科学部は大会等で研究を発表する機会が複数回あり、一回発表することに、至らなかつた点、改善すべき点を吟味し、次の発表に繋げてきました。また、その研究と発表は、今まで部が培ってきたノウハウやデータ、そして先輩方の助言が無ければ有り得ないものでした。この経験から、繋ぐ大切さを学びました。

次に、素直に頼る大切さです。二倍近い人数の後輩を抱え、初めて経験する部長の仕事に、一人でパンクしてしまうことが多々ありました。その時、部員達の助力が大きな支えとなったことで、頼る大切さを痛

感じました。
学んだことを、これから先も
活かし生活していきたいと思
います。
(長谷川由羽)

演劇部

部活動を引退して約五か月、
青春の全てを捧げたと言っても
過言ではないあの日々が、遠い
昔のようです。三十八期は八
名。これは例年の四倍の人数
で、部員が多くなって出来るこ
とが増えた反面、衝突も多くあ
りました。自分達では拗れた関
係をどうしようもなくなった
時、それを修復してくれたのは
時の流れでした。部活動を通し
て、時の流れってすごいなと心
から思いました。

三十八期の部員と出会って約
二年と七か月。当初からは大分
関係が変化しました。「友達」と
いう表現は何か違う気がしま
す。「仲間」でも「家族」でもな
いこの関係。卒業して大人に
なったら、また変わってしまう
のでしょうか。時の流れには感
謝しています。助けられたし学
ばされました。ですが、今の「私
達」のことは、そっと見守って
いてほしいと思います。

(阿蘇あかり)

書道部

私が部活動を通して学んだこ
とは、新しいものに挑戦するこ
との大切さです。私は今まで興
味を持って本気で取り組んだも
のがあまりありませんでした。
書道は以前から一度やってみた
いと思っていたので書道部に入
部しました。今回もいつものよ
うに一つの経験としてできれば
いいなとくらいに思っていました
。しかし、活動していくうちに
書道の面白さを知り、いつの
間にか夢中になっていました。
やってみなければ何もわかりま
せんでした。一度挑戦すること
で新しい自分を知ることのでき
る素晴らしいものに出会えるの
だと思いました。

このように思うことができた
のは熱心に指導してくださった
顧問の先生、共に頑張ってきた
部活動の仲間、賞を取ると誰よ
りも喜んでくれた家族の支えが
あったからです。とても感謝し
ています。これからもたくさん
のことに挑戦していきたいと思
います。
(石川なるみ)

英語部

私はALITの先生との会話を
通して、英語でコミュニケーション

ションをとる技術を学びまし
た。英語部に所属し、ゲイブ先
生と週二回活動することによ
り、人より英語に触れる機会は
多かったです。ゲイブ先生
の言葉を理解しようとした
り、何とか英語で伝えようと、
単語や文法、発音を考えるうち
に、少しずつ知識を身につける
ことができました。間違えると
恥ずかしいと思っていた気持ち
も、何回も会話することにより、
少しずつ自信がついてきて、と
りあえず話してみようと思うこ
とができました。

これからの社会で大切なコ
ミュニケーション能力ですが、
英語部で学んだことを活かし
て、たくさん身につけていきま
いです。そして、英語の勉強は
生涯続け、楽しみたいと思いま
す。
(武藤優人)

放送委員会

入部して三ヶ月右も左も分か
らない私に先輩たちがくださっ
たプレゼント。それは全国大会
でした。あの時の感動は今もな
お私の心に強く残っています。
来年は私がこのステージでアナ
ウンスをするつもりです。
現在、放送部は先輩たちの教
えを引き継ぎ、放送愛をもって

毎日楽しく個性溢れる仲間たち
と活動しています。今年で三年
連続の全国大会出場を果たしま
した。また今年も、放送の楽し
さをより多くの人に知ってもら
うため文化祭で作品を発表し好
評を博しました。

三年前の夢を現実にできたの
はたくさんの方の支えがあった
からです。『夢は見るためにあ
るのではなく叶えるためにある
のだ』と思っています。三年前
に先輩たちからいただいたプレ
ゼントを今度は私たちが後輩に
贈ります。そしてこのプレゼン
トが今後も誰かに夢を与えるこ
とを願っています。(塚本千鈴)

応援委員会

私が応援委員会に入って教え
られたことは、「常に相手に敬意
と感謝の気持ちを持って、謙虚
であること」です。私が一年生
の時、野球部の試合の応援に
行った時、先輩方に、「野球部の
応援を、しに行くのでは無く、
させて頂く。んだ。」と教えて
もらいました。また、OBの方
からも「試合に勝ったのは野球
部のおかげ、試合に負けたのは、
お前ら応援団の責任だ。」と、何
度も指導していただきました。
これらの言葉のおかげで、私は

自分の応援に責任を持って、全
力で野球部の応援をすることが
出来ました。
また、野球部の保護者の方や
相手側の選手、応援席の人々に
敬意と感謝の気持ちを持ち続け
ることも出来ました。私は、「野
球部が負けたのは応援団の責
任」と言う理念を元に、これま
での自分の行動を反省し、次に
つなげて行きたいと思っています。
(高橋航平)

令和元年度 教育実習生 (同窓生のみ)

氏名	実習教科	期生	氏名	実習教科	期生
佐々木芽衣	美術	33期	永林芽衣	保健体育	34期
石田百合子	保健体育	34期	穴戸孝平	日本史	34期
佐藤友希	音楽	34期	佐藤僚介	日本史	33期
香取優樹	保健体育	34期	浦住颯馬	数学	34期
橋本彩	国語	34期	佐藤隼人	物理	34期
菅野涼	保健体育	34期	鈴木大貴	現代社会	34期
菅野ちさと	保健	34期			

平成30年度 転出者

Table with columns: 職名, 氏名, 転出先. Lists staff departures for Heisei 30, including names like 三浦和子, 村上英夫, etc.

が見受けられ、学習、部活動、生徒会活動等、熱心に取り組み、ほとんどの生徒が大学に進学し、どこかの部・委員会...

編集後記

ので、同窓生の皆様、今後とも母校に対して更なる御理解と御協力をよろしく御願ひします。

今回の福島東高校同窓会会報第十六号発行にあたり、同窓会会長様をはじめ皆様方には御多用のところ、原稿や資料を御寄稿頂き厚く御礼申し上げます。

平成31年度 転入者

Table with columns: 職名, 氏名, 前勤務先, 教科. Lists staff arrivals for Heisei 31, including names like 頭名嶋明宏, 栗村弥生, etc.

新しい時代の中で期待がするものとして、今年開催される「東京オリンピック」が挙げられます。昨年ラグビーの日本代表選手をはじめ、多くのスポーツ選手の活躍が見られました。

さて、校内のことについては、昨年の夏に開催された全国インターハイへソフトボール部弓道部が出場、そして放送委員会の全国大会出場と、運動部・文化部ともに生徒の活躍が光りました。

もありません。しかし、このような変化の中、「文武両道」を貫き日々の生活を頑張る自分自身を磨く『東高らしさ』は、新しい時代を生き抜く中で非常に大切な資質だと感じております。

本校も創立四十周年という節目を迎え、十月には四十周年行事が開催されます。青春歌が作られた創立二十周年行事の際には私は高校生でしたが、この行事からもう二十年が経つことに、時の流れの早さと二十年経ってもまだ成長できていない自分に焦りを感じています。

結びになりますが、同窓生の皆様方におかれましては、今後とも周年行事や本校の教育活動に対し、御支援賜りますようお願い申し上げます。

(二十期生 羽田 真幸)